

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	対 人 関 係 の 心 理 学 (Interpersonal Psychology)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	「コミュニケーション心理学」を履修済みであること							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 本講義では、日常生活における対人関係で何が起きているのかについて、心理学の理論やワークを通して学ぶ。									
授 業 目 標 : 自らが体験している対人関係や、周囲の対人関係について、客観的に考えることができるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				授 業 形 態
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習				講義
2	多様な対人関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
3	対人認知				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
4	原因帰属				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
5	対人魅力				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
6	リーダーシップ				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
7	友人関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
8	恋愛関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
9	親子関係				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
10	関係性のテンプレート：アタッチメント①				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
11	関係性のテンプレート：アタッチメント②				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
12	対人関係と心理臨床的問題①				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
13	対人関係と心理臨床的問題②				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
14	対人関係と心理臨床的問題③				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義 40分、 グループワーク 50分
15	まとめ				事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分の対人関係と結び付けて考える				講義
教 本 : なし。授業中に資料を配布する。					参 考 文 献 : 授業中に、適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	多変量解析法入門 (Introduction to Multivariate Statistical Analysis)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	水本 深喜								
履 修 条 件	前提科目	心理学統計法、心理学研究法、社会調査法、社会心理学実験演習等、基礎的な統計学、研究法を履修済みであること							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>統計解析において多変量解析法が用いられることは多く、多変量解析法による分析の結果を読みこなせるようになることにより、客観的記述を正確に理解することができるようになるだろう。本授業では、多変量解析法として、因子分析、二元配置の分散分析、重回帰分析/パス解析を取り上げる。前半では多変量解析を用いた論文の読み方を学んだ上で分析の実際を体験する。そして後半では、自分たちが立てた問いに基づく調査を実施して、データを分析し、結果をまとめ、発表し、レポートにまとめるといった一連の研究のプロセスを体験する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>多変量解析を用いた論文を読んで理解できるようになる。 自分の研究（卒業論文など）で多変量解析を用いることができるようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	オリエンテーション、データ解析の基礎			事前：学習済みのデータ解析法について復習しておく 事後：データ解析法の復習			講義		
2	多変量解析とは			事前： 事後：多変量解析を用いた原著論文を検索する			講義		
3	因子分析を用いた論文を読む			事前：因子分析を用いた論文を持参する 事後：因子分析を用いた論文を読む			講義		
4	因子分析演習			事前：因子分析について復習しておく 事後：因子分析をやってみる			講義 40分、演習 50分		
5	二元配置の分散分析を用いた論文を読む			事前：二元配置の分散分析を用いた論文を持参する 事後：二元配置の分散分析を用いた論文を読む			講義		
6	二元配置の分散分析演習			事前：二元配置の分散分析について復習しておく 事後：二元配置の分散分析をやってみる			講義 40分、演習 50分		
7	重回帰分析/パス解析を用いた論文を読む			事前：重回帰分析/パス解析を用いた論文を持参する 事後：重回帰分析/パス解析を用いた論文を読む			講義		
8	重回帰分析演習			事前：重回帰分析/パス解析について復習しておく 事後：重回帰分析をやってみる			講義 40分、演習 50分		
9	多変量解析を用いた研究の体験：研究デザインの立案			事前：研究デザインを考える 事後：調査紙を作成する			講義 20分、 グループワーク 70分		
10	多変量解析を用いた研究の体験：調査の実施			事前：調査紙を準備する 事後：調査を実施する			講義 20分、 グループワーク 70分		
11	多変量解析を用いた研究の体験：データ解析			事前：回答済み調査紙を回収する 事後：データ解析する			講義 20分、 グループワーク 70分		
12	多変量解析を用いた研究の体験：解析結果の解釈			事前：解析結果を解釈してみる 事後：解析結果を解釈する			講義 20分、 グループワーク 70分		
13	多変量解析を用いた研究の体験：結果発表資料の作成			事前：研究の流れを振り返る 事後：発表資料を作成する			講義 20分、 グループワーク 70分		
14	多変量解析を用いた研究の体験：研究発表会			事前：発表準備 事後：各発表内容について考察する			発表 30分、討議 60分		
15	まとめ、レポートの書き方			事前：多変量解析について復習する 事後：研究結果をレポートにまとめる			講義 40分、演習 50分		
教本： 指定しない				参考文献： 授業中に紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、レポート・テスト（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 観 光 論 (Regional Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鷲 尾 裕 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 从 出 席 の 事 。 出 席 の な い 場 合 は 、 履 修 を 認 め な い 。 国 内 観 光 に 関 す る 「 基 本 の キ 」 の 習 得 を 徹 底 す る の で 、 2 年 次 前 期 に 受 講 す る こ と を 奨 め る 。							
授 業 概 要 :									
<p>南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。</p> <p>毎回、シート（授業時配布する用紙）に学んだ内容をまとめる。ここでは、23都道府県を学ぶ。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論Ⅱで残り24府県に取り組む。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。</p> <p>2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。					事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認する		講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分	
2～14	<p>2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について</p> <p>3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について</p> <p>4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について</p> <p>6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について</p> <p>7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目学ぶ。</p> <p>8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について</p> <p>9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について</p> <p>10. 甲信越、北陸のまとめ 甲信越、北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について</p> <p>12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>13. 神奈川県・厚木市の観光資源について</p> <p>14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p>					事前：前回の都道府県の地図を見直す。 事後：今回の都道府県を地図で確認する。		2・3・5・6・8・9・11・13回目 講義60分白地図記入合計30分 (地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認(30分) 発表と感想(60分)	
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。					事前：白地図ファイルの整理 事後：23都道府県の再確認		事前確認10分 テスト60分 再確認20分	
<p>教 本 : 日本地図帳 (中学校、高校時のものがあればそれを) 初回時、説明する。 参考文献 : 授業時に紹介する。</p>									
<p>成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 白 地 図 (30%)、 発 表 (30%)、 テ ス ト (40%) 等 で 総 合 評 価 す る 。 初 回 時 、 説 明 す る 。</p>									
<p>学 生 へ の ア ド バ イ ス : 国 内 観 光 に 関 す る 「 基 本 の キ 」 の 習 得 を 徹 底 す る の で 、 2 年 次 に 受 講 す る こ と を 奨 め る 。</p>									
<p>オ フ ィ ス ア フ ァ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論 I (Regional Tourism I)						科目分類	専門科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める							
<p>授業概要：</p> <p>南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート（授業時配布する用紙）に学んだ内容をまとめる。地域観光論 I で23都道府県を学ぶ。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。地域観光論 II で24府県に取り組むので続けて履修することを薦める。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。					事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認する		講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分	
2～14	<p>2. 青森県・岩手県・秋田県の観光資源について</p> <p>3. 山形県・宮城県・福島県の観光資源について</p> <p>4. 東北のまとめ 東北6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>5. 栃木県・茨城県・千葉県の観光資源について</p> <p>6. 群馬県・埼玉県・東京都の観光資源について</p> <p>7. 関東のまとめ 関東6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。神奈川県は13回目で学ぶ。</p> <p>8. 新潟県・山梨県・長野県の観光資源について</p> <p>9. 富山県・石川県・福井県の観光資源について</p> <p>10. 甲信越、北陸のまとめ 甲信越、北陸、6県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>11. 静岡県・愛知県・岐阜県の観光資源について</p> <p>12. 中部のまとめ 中部3県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>13. 神奈川県・厚木市の観光資源について</p> <p>14. 神奈川県・厚木市のまとめ 神奈川県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p>					事前：前回の都道府県の地図を見直す。 事後：今回の都道府県を地図で確認する。		2・3・5・6・8・9・11・13回目 講義60分白地図記入合計30分 (地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる) 4・7・10・12・14回目 発表要旨のまとめと確認(30分) 発表と感想(60分)	
15	15. 23都道府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。					事前：白地図ファイルの整理 事後：23都道府県の再確認		事前確認10分 テスト60分 再確認20分	
<p>教本： 日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 参考文献： 授業時に紹介する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 白地図（30%）、発表（30%）、テスト（40%）等で総合評価する。初回時、説明する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域観光論Ⅱ (Regional Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	鷲尾 裕子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	1回目から出席のこと。出席のない場合は、履修を認めない。 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。							
<p>授業概要：</p> <p>南北に長いわが国の観光資源を地域単位で整理し、日本の多様な魅力を知る。 毎回、シート（授業時配布する用紙）に学んだ内容をまとめる。15回の授業分を1冊にまとめ、観光振興について学ぶ貴重な資料として、活用してもらいたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 国内各地の観光資源について、内容や特徴を理解する。 2. 観光資源の特徴ごとに活用方法を学ぶ。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション、47都道府県の位置、都道府県庁所在地の確認をする。北海道の観光資源を白地図に書き入れる。					事前：シラバスを読む 事後：地図帳で確認する		講義20分、プリント記入20分、北海道の講義30分、白地図記入20分	
2～14	<p>2. 滋賀県・京都府の観光資源について</p> <p>3. 三重県・奈良県・和歌山県の観光資源について</p> <p>4. 兵庫県・大阪府の観光資源について</p> <p>5. 関西のまとめ 関西7県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>6. 鳥取県・島根県の観光資源について</p> <p>7. 岡山県・広島県・山口県の観光資源について</p> <p>8. 愛媛県・香川県の観光資源について</p> <p>9. 徳島県・高知県の観光資源について</p> <p>10. 中国・四国のまとめ 中国・四国9県の観光資源の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p> <p>11. 福岡県・佐賀県・長崎県の観光資源について</p> <p>12. 大分県・熊本県・宮崎県の観光資源について</p> <p>13. 鹿児島県・沖縄県の観光資源について</p> <p>14. 九州・沖縄のまとめ 九州・沖縄8県の中で興味関心を持った観光資源の詳細を調べ発表する。</p>					事前：前回の都道府県の地図を見直す。 事後：今回の都道府県を地図で確認する。		2・3・4・6・7・8・9・11・12・13回目 講義60分白地図記入合計30分 （地図や写真を用いた講義のあと、白地図に書き入れる。） 5・10・14回目 発表要旨のまとめと確認（30分） 発表と感想（60分）	
15	15. 24府県の観光資源と県庁所在地を確認し、確認テストを行う。					事前：白地図ファイルの整理 事後：24府県の再確認		事前確認10分 テスト60分 再確認20分	
<p>教本：日本地図帳（中学校、高校時のものがあればそれを）初回時、説明する。 参考文献：授業時に紹介する。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 白地図（30%）、発表（30%）、テスト（40%）等で総合評価する。初回時、説明する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 国内観光に関する「基本のキ」の習得を徹底するので、1年次に受講することを奨める。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論 (Regional Promotion)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成立と内容を概説する。次に、地域振興の基本的課題である産業振興、コミュニティの育成、地域資源のブランド化などを、都市・地域環境の基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域振興と観光振興の関係性を考察し、今後の観光振興のありかたについて説明する。講義は、「実習」を含み、講義内容の理解を深める。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： ① 地域振興の概念・歴史などを理解する。 ② 都市計画の概念と手法を地域振興との関係性において理解する。 ③ 地域振興と観光振興の関係性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									

授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）	事前・事後学習（学習課題）	授業形態
1	オリエンテーション	事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習	講義90分
2	地域振興の意味と定義	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
3	都市計画・地域振興・観光振興（ハード的・ソフト的という軸における関係性）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
4	都市計画の歴史（都市という居住空間の計画史と地域振興）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
5	わが国の都市計画（1）（原理と基本的タームの理解）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
6	わが国の都市計画（2）（都市計画の手法と内容：都市計画図の講読実習【用途地域、建蔽率など】）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義40分、実習40分
7	英国の都市環境と都市計画（1）（英国の都市計画史）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
8	英国の都市環境と都市計画（2）（英国の都市計画と観光資源：観光資源の分析の実習）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義40分、実習40分
9	観光地計画と都市計画（1）（各々の定義とその差異について）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
10	観光地計画と都市計画（2）（都市域における観光地計画の実際）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
11	国土計画と観光振興（1）（全国総合開発計画の歴史の変遷）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
12	国土計画と観光振興（2）（観光振興と全国総合開発計画）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
13	地域振興と観光振興（1）（その複合的側面：事例の提示を通して【国内】）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、実習10分
14	地域振興と観光振興（2）（それらの複合的側面：事例の提示を通して【海外】）	事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習	前回の確認10分、講義70分、小レポート10分
15	まとめ	事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習	前回の確認10分、講義80分

教本：
毎回資料を配布する。

参考文献：
適時指定する。

成績評価の方法、評価基準：
平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。

学生へのアドバイス：
地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興」を考えること。

オフィスアワー：
初回講義日に伝える。

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域振興論 I (Regional Promotion I)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成立と内容を概説する。次に、地域振興の基本的課題である産業振興、コミュニティの育成、地域資源のブランド化などを、都市・地域環境の基幹的計画である国土計画・都市計画を俯瞰しながら論ずる。そして、地域振興と観光振興の関係性を考察し、今後の観光振興のありかたについて説明する。講義は、「実習」を含み、講義内容の理解を深める。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： ① 地域振興の概念・歴史などを理解する。 ② 都市計画の概念と手法を地域振興との関係性において理解する。 ③ 地域振興と観光振興の関係性を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域振興の意味と定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	都市計画・地域振興・観光振興（ハード的・ソフト的という軸における関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	都市計画の歴史（都市という居住空間の計画史と地域振興）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	わが国の都市計画（1）（原理と基本的タームの理解）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	わが国の都市計画（2）（都市計画の手法と内容：都市計画図の講読実習【用途地域、建蔽率など】）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、実習40分	
7	英国の都市環境と都市計画（1）（英国の都市計画史）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
8	英国の都市環境と都市計画（2）（英国の都市計画と観光資源：観光資源の分析の実習）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、実習40分	
9	観光地計画と都市計画（1）（各々の定義とその差異について）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	観光地計画と都市計画（2）（都市域における観光地計画の実際）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	国土計画と観光振興（1）（全国総合開発計画の歴史の変遷）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	国土計画と観光振興（2）（観光振興と全国総合開発計画）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	地域振興と観光振興（1）（その複合的側面：事例の提示を通して【国内】）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	地域振興と観光振興（2）（それらの複合的側面：事例の提示を通して【海外】）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 毎回資料を配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 地域振興の基底にある「国土計画や都市計画」を考えながら「観光振興」を考えること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地域振興論Ⅱ (Regional Promotion II)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地域振興の概念を説明し、わが国の地域振興の成立ちと内容を概説する。本講義の目的は、地域振興・観光振興を推進する上で必要な計画、調査等における基礎的知識を修得することにある。まず、地域振興・観光振興の具体的事例を提示して、両者の関係性を論ずる。また、観光領域から、地域振興を考える事例を示し、「具体的な調査手法」・「調査による成果」を「実習」を通し提示する。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>① 観光による地域振興の現状・意義・役割を修得する。 ② テーマ別・地域・形態別の観光振興の手法について修得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	地域振興と観光振興（1） （成立ちと両者の差異）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	地域振興と観光振興（2） （観光学の枠組みから似た両者の関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	地域振興と観光まちづくり（1） （具体的事例：国内）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	地域振興と観光まちづくり（2） （具体的事例：国内（海外も含む））					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	伝統的建造物群保存地区と地域振興① （その概要と伝建地区の地理的分布）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	伝統的建造物群保存地区と地域振興② （保存の手法と地域環境：実習 [分析方法]）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
8	伝統的建造物群保存地区と地域振興③ （保存に関わる地域振興的側面と観光振興の側面）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
9	伝統的建造物群保存地区における地域振興① （観光アトラクションとしての保存地区）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	伝統的建造物群保存地区における地域振興② （アトラクションの計測手法 [レポートリーグリッド発展手法等を用いて]： 実習 [測定手法の実践]）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
11	伝統的建造物群保存地区における地域振興③ （アトラクションの計測手法の飛騨高山における研究事例）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	商業的観光目的地内の認知的構造と地域振興（1） （フロント・バックの観光学的意味）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	商業的観光目的地内の認知的構造と地域振興（2） （沖縄県那覇市国際通りにおけるフロント・バックの様相と地域振興・観光 振興：実習 [測定手法・分析]）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、 実習40分	
14	「地域振興」と「観光振興」融合と相克					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 毎回資料を配布する。					参考文献： 適時指定する。				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>平常点（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>地域振興と観光振興の方法や事例を紹介します。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史 I (Cultural History of Areas I)						科目分類	専門科目	
担当教員	安倍 幸								
履修条件	前提科目	文化人類学などの文化学							
	その他	なし							
授業概要： 東アジア、とりわけ日本の文化を歴史的な視点から捉えなおすことが、本講義の目的になる。									
授業目標： 教科書的歴史だけではなく歴史を知ること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	地域とは何か、地域文化とは何か					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	社会構造という考え方					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	歴史と構造					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	日本の地域文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	日本の地域文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	沖縄・宮古の地域文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	沖縄・宮古の地域文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	琉球文化と地域性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	地域文化と盛り場空間 新宿					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	地域文化と盛り場空間 新宿2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	地域文化と盛り場空間 新宿3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	地域文化と盛り場空間 渋谷					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	地域文化と盛り場空間 渋谷2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	地域文化と盛り場空間 渋谷3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： わからないことがあっても、あきらめないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化史Ⅱ (Cultural History of Areas Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 幸								
履 修 条 件	前提科目	文化人類学などの文化学							
	そ の 他	なし							
授業概要： 前期の地域文化史Ⅰをベースに、範囲を拡大し、東南アジアまでを視野に入れていく。									
授業目標： 異なる文化とどのように関係を作り上げていくのかに関して、自分の視点を持つ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	地域文化史Ⅰの復習					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
2	東南アジアの地域性					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
3	大陸の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
4	大陸の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
5	大陸の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
6	島嶼部の文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
7	島嶼部の文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
8	島嶼部の文化3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
9	異文化接触と地域文化					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
10	異文化接触と地域文化2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
11	地域文化と政策					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
12	地域文化と政策2					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
13	地域文化と政策3					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
14	地域と歴史					事前：なし 事後：復習をする		講義 90分	
15	試験あるいはレポート					事前：ノート整理 事後：		試験あるいはレポート	
教本： なし					参考文献： 授業中にたくさん紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 複雑なことから逃げないように。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。									
授 業 目 標 :									
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義				事前：地域、文化の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について				事前：地域文化とは何か、自分で考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等				事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について				事前：授業タイトルの用語を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み				事前：文化芸術振興法について調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	地域の文化資源の発見とリスト化① それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ				事前：自分の住む地域の広報物を収集。 事後：発表のための調査と資料作成			講義(50分)、 演習(40分)	
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし				事前：創造都市論とは何か調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見ながら解説				事前：地方企業のCSR等を検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	地域の文化資源の発見とリスト化② 学生による発表とディスカッション				事前：資料作成、発表準備。 事後：配布資料の内容確認			演習(90分)	
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について				事前：伊豆諸島の位置と現状を検索。 事後：配布資料の内容確認			講義(30分)、 ディスカッション(60分)	
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源としての評価				事前：文化資源、観光資源の関係を調べる。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、組織、史跡など				事前：観光における文化資源の活用を検索。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等				事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認			講義(70分)、 小レポート作成(20分)	
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する				事前：居住する地域の広報戦略を考える。 事後：配布資料の内容確認			講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。				事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認			講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等(30%)、小テスト・レポート等(30%)、定期試験(40%)等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。									
オ フ ィ ス ア フ ター :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 (Regional Cultures)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授 業 目 標 : 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コミュニケーション ② 想像/創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英語帝国主義~日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非 言 語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非 言 語 ② 沈黙の意味~日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時 間 ・ 空 間 - 記 憶 と 忘 却 と の 関 係 性 に つ い て、東 日 本 大 震 災 を 基 に 議 論 を 深 め る。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発 展 学 習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発 展 学 習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	ま と め ・ 地域文化論の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 : 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 中 に 課 小 レポ ー ト (40%)、及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
多様な地域文化の捉え方を理解し、様々な地域文化の構成要素である文化資源の保存と活用事例を学んでいく。その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等を理解する。実際に皆さんが住む地域の文化資源をどのようにリストアップするか学び、活用方法を自分たちで考える。地域文化の保護と活用、活性化の手段について学ぶ。									
授 業 目 標 :									
地域文化の発見とその発信について基礎的な方法を身につける。 地域文化の多様性を学び、ベースとなる文化資源を掘り起こし活性化させる事で、観光資源としても有効であることを理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。地域文化論を学ぶことの意義					事前：地域、文化の意味を調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 アンケート(20分)	
2	地域、文化の捉え方。地域文化の構成要素である伝統文化、歴史、民俗、景観等と文化資源について					事前：地域文化とは何か、自分で考える 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
3	国、地方自治体の地域文化活性化の方針と政策。景観法や文化財保護法の重伝建築地区、文化的景観等					事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
4	地域文化の保存と活性化① 重要伝統的建造物群と文化的景観について					事前：授業タイトルの用語を調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
5	地域文化の保存と活性化② 文化芸術振興基本法と地方自治体の取り組み					事前：文化芸術振興法について調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
6	地域の文化資源の発見とリスト化①。それぞれの住む地域での文化資源の発見とリスト化の方法を学ぶ					事前：自分の住む地域の広報物を収集 事後：発表のための調査と資料作成		講義(50分)、 演習(40分)	
7	地域文化の保存と活性化③ 都市の地域文化と創造都市論による街おこし					事前：創造都市論とは何か調べる 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
8	地域文化と企業 地域文化と地方の企業との関係について事例を見ながら解説					事前：地方企業のCSR等を検索する。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	地域の文化資源の発見とリスト化②。学生による発表とディスカッション					事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認		演習(90分)	
10	様々な地域文化① 日本の地域文化 山村、漁村 特に伊豆諸島の伝統文化について					事前：伊豆諸島の位置と現状を検索 事後：配布資料の内容確認		講義(30分)、 ディスカッション(60分)、	
11	地域文化の価値評価。文化資源としての価値評価。そして観光資源としての評価					事前：文化資源、観光資源の関係を調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	地域における様々な文化資源の活用と観光 遺跡、史跡、名勝。人、組織、史跡など					事前：観光における文化資源の活用を検索 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
13	様々な地域文化② 世界の地域文化と特性 風土と住居、生活文化。各地の事例・オランダ、台湾等					事前：オランダと台湾について検索する。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 小レポート作成(20分)	
14	地域文化の情報発信。情報発信の具体的な方法を学び、その必要性について理解する					事前：居住する地域の広報戦略を考える。 事後：配布資料の内容確認		講義(80分)、 小テスト(10分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。					事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
特にありません。ほぼ毎回資料プリントを配布します。					その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。3回以上の欠席の場合は、公欠等にかかわらず課題を課す。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
毎回配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそのプリントから出題します。住んでいる地域の伝統文化とは何か、興味を持ってください。									
オ フ ィ ス ア フ タ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 I (Regional Cultures I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動することが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	授 業 概 要 の 説 明 ◇地域文化論 I の全体像を概観する。					事前：教本 pp.1~3精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	グローバル社会と異文化コミュニケーション ① グローバル社会における異文化交流の実情を知る。					事前：教本 pp.3~9精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	グローバル社会と異文化コミュニケーション ② 異文化交流の歴史~中国少数民族の生活を知る。					事前：教本 pp.236~242精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	文 化 ① せめぎ合いの場としての文化~文明の衝突を理解する。					事前：教本 pp.11~16精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	文 化 ② オリエンタリズムと白人性について理解を深める。					事前：教本 pp.16~19精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	コミュニケーション ① コミュニケーション能力と寛容性の理解を深める。					事前：教本 pp.19~24精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	コミュニケーション ② 想像/創造する力の可能性をともに考える。					事前：教本 pp.24~31精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	言 語 ① 英語帝国主義~日本人はなぜ英語が話せないのか。					事前：教本 pp.108~117精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	言 語 ② 国家と標準語・方言との関係を考える。					事前：教本 pp.117~134精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	非言語 ① 非言語メッセージとステレオタイプの関係を考える。					事前：教本 pp.135~144精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	非言語 ② 沈黙の意味~日本人と以心伝心との関係を考える。					事前：教本 pp.144~152精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
12	時間・空間-記憶と忘却との関係性について、東日本大震災を基に議論を深める。					事前：教本 pp.152~157精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
13	発展学習 ① 生物多様性と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
14	発展学習 ② 建築と文化とのかかわりを考える。					事前：事前配布物の精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
15	まとめ ・地域文化論 I の内容を総括し、議論を深める。					事前：これまでのノート復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 中 に 課 小 レポ ー ト (40%)、及 び 期 末 試 験 (60%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
外 国 人 と 関 わ る 機 会 が 増 え て い る 中 で 起 き て い る 身 近 な 国 際 問 題 に つ い て、主 体 的 に 考 え る 習 慣 を 身 に つ け て 下 さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	地 域 文 化 論 II (Regional Cultures II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	地 域 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 様々な地域文化の構成要素である多様な文化資源の関係性を学んでいく。地域文化の捉え方を理解し、その背景にある国や地方自治体の取り組みや、保存、活用のための法律等をどのように活用することが出来るのか考える。実際の地域文化による地域活性化事例を確認して、分析する。									
授 業 目 標 : 地域文化とは何かを考察し、その様々な構成要素である各種資源について、その活性化と活用方法を学ぶ。 地域文化のベースとなる多種多様な文化等の資源の関係性を明らかにし、環境(文化)クラスターとしての保存と活性化を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明。					事前：地域、文化の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 アンケート(30分)	
2	地域と文化の多様な捉え方について考える。地域文化の資源である伝統文化、歴史、民俗、景観等との関係性について					事前：地域文化とは何か、自分で考える。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
3	日本の地域文化の特性を、世界の中で比較しつつ考察する。					事前：居住する自治体のHPを検索する。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 小テスト(20分)	
4	地域文化と構成資源① 地域文化と地域の食文化の関係					事前：食文化について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
5	地域文化と構成資源② 地域文化と地域の歴史、地域の人との関係性					事前：地域史の調べ方について調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(50分)、 小テスト(40分)	
6	地域文化と構成資源③ 地域文化と自然や風土との関係性					事前：風土という言葉の意味を調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(50分)、 小テスト(40分)	
7	地域文化と構成資源④ 地域文化と鉄道などの交通や近代産業、伝統的産業や民俗、宗教との関係性					事前：日本における鉄道の歴史を調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
8	地域文化の事例研究① 関東地方を中心に様々な地域文化の事例についてみていく。学生が地域文化事例を調査研究する地域を検討する。					事前：関東地方の地図を確認 事後：対象地域を調べて決める。		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
9	地域文化の事例研究② 学生が地域文化事例を調査研究する地域を決めて調査に着手する。					事前：資料作成、発表準備 事後：配布資料の内容確認		講義(20分)、演習(70分)	
10	地域文化の事例研究③ 都市東京の中での伝統文化の捉え方と事例を説明。					事前：東京の地図をみて位置関係を確認 事後：配布資料の内容確認		講義(60分)、 ディスカッション(30分)	
11	地域文化の事例研究④ 新潟県十日町を中心とした地域の事例について説明					事前：十日町市についてネットで調べる。 事後：配布資料の内容確認		講義(70分)、 ディスカッション(20分)	
12	調査・研究発表① 学生が事例研究について発表。					事前：報告準備 事後：発表に関する評価とコメント作成		報告(60分)、討論(30分)	
13	調査・研究発表② 学生が事例研究について発表					事前：報告準備 事後：発表に関する評価とコメント作成		報告(60分)、討論(30分)	
14	調査・研究発表③ 学生が事例研究について発表					事前：報告準備 事後：発表に関する評価とコメント作成		報告(40分)、討論(30分)、 講評(20分)	
15	まとめ 授業全体を振り返り、学生の意見や質問を受けて評論。					事前：授業全体を振り返る。 事後：配布資料の内容確認		講義(45分)、 ディスカッション(45分)	
教 本 : 特にありません。多くの回で資料プリントを配布します。					参 考 文 献 : その都度提示します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授業参加状況(発表や配布資料等) (40%)、小テスト・レポート等 (30%)、試験 (30%) 等で総合評価する。									
オ フ ィ ス ア フ ター : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地域文化論Ⅱ (Regional Cultures Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	福島 崇宏								
履 修 条 件	前提科目	地域文化論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要： グローバル社会となった今日、私たちはさまざまな国籍や文化を有する人々とともに社会活動をすることが当たり前になっている。そして他者を受け入れ、自分は何者なのかを分かりやすく表現する能力が求められている。よって本講座では、私たちの身近で起きるさまざまな事例をもとに異文化に触れることの意義と課題を考え、国際社会で通用する表現力を高めるきっかけを提供する。									
授業目標： 1. 世界で起きている文化や宗教などを巡る諸問題について世界地図を用いて説明することができる。 2. 世界で起きているさまざまな問題について、歴史的背景や課題を自らのことばで表現することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	授業概要の説明 ◇地域文化論Ⅱの全体像を概観する。					事前：シラバス精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	異空間としてのメディア ① 現代の映像メディアと文化とのかかわりを考える。					事前：教本 pp.83～95精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
3	異空間としてのメディア ② メディアと権力～メディアが世界を変えるのだろうか。					事前：教本 pp.95～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
4	メディアと文化 ① グローバル社会とメディア文化について検討する。					事前：教本 pp.37～50精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
5	メディアと文化 ② 戦争の記憶、記憶の戦争について理解を深める。					事前：教本 pp.50～59精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
6	異文化接触 ① 「カルチャーショック」と適応について事例を検討する。					事前：教本 pp.61～90精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
7	異文化接触 ② アイデンティティと「他者」～自分探しの意味を考える。					事前：教本 pp.90～108精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
8	文化のポリティクス 現実はつくられる～アフリカと貧困・開発問題を知る。					事前：教本 pp.159～169精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
9	グローバル化の行方 ① グローバル化と格差社会～貨幣と文化の関係を知る。					事前：教本 pp.181～188精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
10	グローバル化の行方 ② 画一化されない食文化とはどのようなものか考える。					事前：教本 pp.189～192精読 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
11	グローバル化の行方 ③ オルタナティブな世界の構築に向けて何ができるか。					事前：教本 pp.192～205精読 事後：まとめノートの作成		報告 60分、討論 30分	
12	研究発表1 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
13	研究発表2 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
14	研究発表3 ・これまでの学びの成果を発表する。					事前：報告準備 事後：発表評価表の作成		報告 60分、討論 30分	
15	まとめ ・地域文化論Ⅱの総括とともに議論を深める。					事前：これまでの復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教本： 石井敏ほか『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション —多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年。					参考文献： 授業中に適宜紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業中の小レポート（40%）及び期末試験（60%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国人と関わる機会が増えている中で起きている身近な国際問題について、主体的に考える習慣を身につけて下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論Ⅰ (Alternative Tourism and Mass Tourism Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 映像でイメージを掴み、着地型観光の特性を理解した上でメリットとデメリットを討議。									
授業目標： 着地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：配布プリントを読返す		講義 90分	
2	地域はなぜ観光に向かうのか：観光による地域おこしについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
3	着地型観光と地域資源：地域のオンリーワンの観光資源を探し出し、ブラッシュアップし、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
4	着地型観光の事業主体：地域の観光の運営主体は誰かについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
5	着地型観光の商品企画：実際に商品企画をしてみ、行程、販売価格、販売対象などを考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
6	着地型観光の流通・販売：地域の観光資源をどのように販売したら良いか考え、発表する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
7	着地型観光における住民の役割：観光による地域振興における住民の果たす役割について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
8	体験交流型観光：体験型観光の重要性について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
9	ニューツーリズム開発：持続可能な観光について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
10	エコツーリズム：エゴツーリズムに変わってしまわないようにする方策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
11	放射線の効用：放射線のホルミシスについて考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
12	温泉文化：体に良い温泉、体に悪い温泉を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
13	嗜好品文化：世界各国の嗜好品について考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
14	食の安心・安全：危険な食とは何かについて考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
15	ディズニーランド：ディズニーランドのリピーターが多い理由を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読返す		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
教本： プリントを配布する					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	着地型・発地型観光論Ⅱ (Alternative Tourism and Mass Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	大井 功								
履修条件	前提科目	着地型・発地型観光論Ⅰを同時履修か、過去に履修したことがある。							
	その他	なし							
授業概要： 映像によりイメージを掴み、発地型観光の多様な形態を学び、そのメリットとデメリットを討議する。									
授業目標： 発地型観光の特性を活かした観光プランが作成できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	海外旅行の基礎（Ⅰ）：3レターコードにより、航空会社や都市名を表示する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
2	海外旅行の基礎（Ⅱ）：時差や国際便の航空機の飛行時間の計算方法を理解し、問題を解く。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
3	食 旅：安全・安心の食、危険な食、地産地消などを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
4	祭 旅：祭りによる町おこしを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
5	産業観光：産業観光を活用した地域振興の方法を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
6	スポーツ・ヘルス・ツーリズム：スポーツを活用した観光や健康づくりを考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
7	メディカル・ツーリズム：医療を目的とした観光振興の是非について考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
8	肉食文化：肉食文化と穀物文化を比較し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
9	航空機のなぞ：ジェット燃料とは何か、ジャンボジェット機はなぜ、姿を消したのかなどについて考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
10	カジノミクス：総合レジャー施設建設に伴うメリット、デメリットを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
11	ホテル利用法：国際ホテルの利用方法を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
12	エアライン・クライシス：航空会社経営環境の変化に伴う営業戦略の変化を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
13	旅行の健康管理：旅行に伴う体調の変化と病を考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
14	海外旅行犯罪：海外旅行で遭遇する犯罪と被害に遭わないための方策を考え、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
15	麻薬文化：麻薬に対する厳罰国と容認国の考え方の違いを考察し、討議する。					事前：参考文献・類書を読む 事後：配布プリントを読む		講義 50分、映像 20分、 討議 20分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 尾家建生他著「これでわかる着地型観光」田畑書店 ￥1,500+税 浜田篤郎著「伝説の海外旅行」田畑書店 ￥1,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（授業参加度、小テスト等）（40%）、定期試験（60%）等									
学生へのアドバイス： 楽しくなければ観光は学べない。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	4年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中級簿記Ⅰ (Intermediate Bookkeeping Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担当教員	高橋 琢也								
履修条件	前提科目	簿記原理Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要： 中級簿記では、簿記原理Ⅰ・Ⅱに続き、簿記の基本的な知識を理解したうえで、日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術について授業を行う。そのため、簿記原理Ⅰ・Ⅱを履修している必要がある。									
授業目標： 日商簿記2級レベルの商業簿記の知識・技術を習得することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	簿記一巡の手続きの復習 簿記原理Ⅰ・Ⅱの復習を問題演習をとおして行う。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義30分 問題演習60分	
2	財務諸表の特徴 財務諸表の種類と特徴について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
3	現金預金 基本的な仕訳を含め、銀行勘定調整表について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
4	手形にかかる処理 手形の裏書・割引、更改、不渡り等について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
5	有価証券にかかる処理1 有価証券の分類、評価等について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
6	有価証券にかかる処理2 第5回につづいて、有価証券の処理について理解を深める。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
7	債務の保証と保険金の処理 債務の保証と保険金の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
8	商品売買と棚卸減耗損・商品評価損1 棚卸減耗損と商品評価損について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
9	商品売買と棚卸減耗損・商品評価損2 第8回につづいて、商品売買について理解を深める。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
10	固定資産にかかる処理 固定資産の取得、売却等、減価償却について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
11	引当金にかかる処理 引当金の種類と設定等の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
12	収益・費用にかかる処理 収益と費用の種類と収益認識基準について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
13	純資産にかかる処理 純資産の種類と準備金等の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
14	税金の処理 法人税と消費税の処理について解説する。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		講義45分 問題演習45分	
15	問題演習 前期内容の理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習90分	
教本： 滝澤ななみ『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級商業簿記』、TAC。 適宜、指示する。 渡辺裕巨 他『検定簿記ワークブック2級商業簿記』、中央経済社。					参考文献： 適宜、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 試験（100％）で評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中 級 簿 記 Ⅱ (Intermediate Bookkeeping II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ 中 級 簿 記 Ⅰ							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 中 級 簿 記 Ⅱ 中 級 簿 記 Ⅱ に 続 き、簿 記 の 基 本 的 な 知 識 を 理 解 し た う え で、日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 に つ い て 授 業 を 行 う。そ の た め、簿 記 原 理 Ⅰ ・ Ⅱ を 履 修 し て い る 必 要 で あ る。ま た、中 級 簿 記 Ⅰ の つ づ き の 科 目 で あ る た め、中 級 簿 記 Ⅰ も 履 修 し て い る 必 要 が あ る。									
授 業 目 標 : 日 商 簿 記 2 級 レ ベ ル の 商 業 簿 記 の 知 識 ・ 技 術 を 習 得 す る こ と を 目 標 と す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	中 級 簿 記 Ⅰ の 復 習 前 期 に 扱 っ た 内 容 の 復 習 を す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 20 分 問 題 演 習 70 分	
2	リ ー ス 会 計 リ ー ス 取 引 の 処 理 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
3	外 貨 建 取 引 外 貨 建 取 引 の 換 算 と 二 取 引 基 準 等 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
4	税 効 果 会 計 課 税 所 得 と 税 効 果 会 計 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
5	決 算 1 (決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成) 決 算 整 理 後 残 高 試 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
6	決 算 2 (精 算 表 の 作 成) 第 5 回 に つ づ い て、精 算 表 の 作 成 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
7	決 算 3 (財 務 諸 表 の 作 成) 第 6 回 に つ づ い て、財 務 諸 表 の 作 成 を 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
8	本 支 店 会 計 1 決 算 ま で の 処 理 を 理 解 し た う え で、本 支 店 会 計 を 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
9	本 支 店 会 計 2 第 8 回 に つ づ い て、本 支 店 会 計 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
10	本 支 店 会 計 3 第 9 回 に つ づ い て、本 支 店 会 計 の 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
11	連 結 会 計 1 (開 始 仕 訳) 連 結 財 務 諸 表 の 作 成 に 必 要 な 開 始 仕 訳 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
12	連 結 会 計 2 (連 結 精 算 表 の 作 成) 開 始 仕 訳 を 理 解 し た う え で、連 結 精 算 表 を 作 成 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
13	連 結 会 計 3 (連 結 財 務 諸 表 の 作 成) 第 12 回 に つ づ い て、連 結 財 務 諸 表 を 作 成 す る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
14	連 結 会 計 4 第 13 回 に つ づ い て、連 結 会 計 に つ い て 理 解 を 深 め る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 45 分 問 題 演 習 45 分	
15	問 題 演 習 後 期 授 業 内 容 の 理 解 度 を み る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
滝 澤 な な み 『み ん な が 欲 し っ た 簿 記 の 教 科 書 日 商 2 級 商 業 簿 記』、TAC。 渡 辺 裕 恒 他 『検 定 簿 記 ワ ー ク ブ ッ ク 2 級 商 業 簿 記』、中 央 経 済 社。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 試 験 (100%) で 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必 ず 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	沈 瑛								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 本講義では中国語の発音から初めて、正しい発音の仕方を身につけるようにしていきます。そして、中国語の日常会話を中心とする簡単な挨拶や会話を学びます。</p>									
<p>授業目標： 1. 中国への関心を高める。 2. 発音・文法の初歩から初めて、中国語の基礎を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要と中国語の学び方					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
3	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
4	教科書第1課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
5	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
6	教科書第2課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
7	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	教科書第3課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
9	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
10	教科書第4課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
11	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
12	教科書第5課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
13	教科書第6課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分	
<p>教本： 『《改訂版》さあ、中国語を学ぼう—会話・講義—』竹島毅・趙昕著（白水社出版） 無し。 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 外国語の学習には基本的な文法などを理解すること、基本的な語彙を覚えるという過程があります。予習・復習を必ず行ってください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 中国語の基礎を習得するためのクラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。									
授業目標： 中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に付けることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 発音①：声調					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分	
2	発音②：単母音 複母音					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分	
3	発音③：無気音と有気音 そり舌音					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分	
4	発音④：鼻音を伴う母音など声調変化 あいさつの言葉					事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉を覚える		講義 40分、発音指導・練習 30分、個人指導 20分	
5	名前の言い方 決まり文句					事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語を覚える。		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
6	人称代詞 “是”、“吗” 疑問文 人称代名詞+“呢”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
7	復習・発音と会話の練習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分	
8	中間テスト					事前：復習 事後：復習：単語文を覚える		復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分	
9	動詞述語文 指示代詞					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
10	“的”の省略 形容詞述語文					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
11	所有を表す“有/没有” 数詞 量詞 家族呼称					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
12	会話・練習・復習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分	
13	文末の“了” 名詞述語文 比較文“比” 年月日の言い方					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
14	曜日の言い方 時間詞 推量の“吧”					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
15	総復習					事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義（復習・説明）30分、発音・練習 30分、質問応答 30分	
教本： 『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅰ (Chinese I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	仲 伯維								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。									
授業目標： 語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「是」の文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「的」の用法、疑問詞、疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「所有」を表す「有」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 指示代名詞					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 数字、日付の教え方					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 完了の表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 反復疑問文					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 時間量の表示方法					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 過去の経験を表す表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 「是・・・的」文の表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） しにくる、しに行くの表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・春編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義 50分／演習 40分	
教本： 竹島金吾等（著）『中国語はじめての一步』白水社最新版					参考文献： 山下輝彦『中国語入門』白水社				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前提科目	中国語Ⅰを履修していること。							
	そ の 他	なし							
授業概要： 中国語は発音が大事です。中国語コミュニケーションⅠで学んだ発音を確認した後、Ⅰで学習した内容をベースに基礎的な文法を学びつつ、単語の知識を増やしていきます。大学で留学生との日常会話ができるような力を身につけていきます。									
授業目標： 1. 基礎的な文法を学習する。 2. 日常の会話力、リスニング力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	発音					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
3	教科書第7課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
4	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
5	教科書第8課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
6	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
7	教科書第9課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
8	復習（ミニテスト①）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
9	教科書第10課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
10	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
11	教科書第11課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
12	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
13	教科書第12課					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義50分、ディスカッション20分、発表20分	
14	復習（ミニテスト②）					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義20分、ディスカッション30分、発表40分	
教本： 『改訂版』さあ、中国語を学ぼう—会話・講義— 竹島毅・趙昕著（白水社出版） 税別 ¥2,400、教科書の購入が無い場合は受講を認めません。					参考文献： なし。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（50%）、定期試験（10%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 単語を覚えることと共に、外国語は積極的に話すことが大事です。特に会話に力点を置いてあります。自ら考えて話すことが大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。							
	その他	なし							
授業概要： 中国語Ⅰの基礎を習得した受講者のための初級クラスである。中国語を正しく発音でき、同時に正確に聞き取れるように訓練する。その上、基礎的な文法を学び、会話練習や作文などを平行して行うことを通じて中国語の基礎コミュニケーション力を高める。									
授業目標： 中国発音の基礎（ピンイン）、初級文法、簡単な日常会話（挨拶、自己紹介など）を身に付けることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 基礎内容の復習					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、発音練習		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分	
2	時刻の言い方 指示詞 特定のモノ（ヒト）+在+場所など					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
3	動詞+“了” 程度副詞：“挺”、“很”、“非常”					事前：CDを聞き、発音練習 事後：CDを聞き、発音練習		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
4	会話・練習・復習					事前：CDを聞き、発音練習 事後：あいさつの言葉を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分	
5	“喜欢”+VP 動詞+“过”など					事前：自分の名前を調べる 事後：復習、単語を覚える。		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
6	助動詞“会”、“能” 動詞の重ね型 様態補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
7	復習・発音と会話の練習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分	
8	中間テスト					事前：復習 事後：復習：単語文を覚える		復習 20分、中間テスト 50分、説明・質問応答 20分	
9	助動詞 想、打算 連動文 方向補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
10	反復疑問文 選択疑問文 主述述語文 身長の言い方					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
11	“跟”、“和”、“给” 結果補語など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
12	会話・練習・復習					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 20分、復習・会話・練習 50分、答え合わせ・質問応答 20分	
13	可能補語 値段の聞き方 “是～的”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
14	“把”構文 動詞+“着”など					事前：CDを聞き本文を音読。 事後：復習：単語文を覚える		講義 30分、発音・練習 45分、質問応答・個人指導 15分	
15	総復習					事前：復習：単語文を覚える 事後：復習：単語文を覚える		講義（復習・説明）30分、発音・練習 30分、質問応答 30分	
教本： 『はくのせんせい』相原茂 郭雲輝 著 朝日出版社					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 外国語を習うには、楽しい気持ちを持つことがとても大事、先生とクラスのみなさんと一緒に、楽しく学びましょう。 中国語の発音は難しいのは先入観だけです。授業は、わかり易く行うことを工夫します。常に復習しながら進めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	中国語Ⅱ (Chinese II)						科目分類	基礎科目	
担当教員	仲 伯 維								
履修条件	前提科目	中国語Ⅰ履修済みを前提とする。							
	その他	なし							
授業概要： 中国語を学ぶ上で、発音が難しいことはよく知られているが、「文法の体系がよくわからない」、「どう表現すれば正しいのか」という声もよく聞かれている。本授業はこうしたことを考慮し、できるだけ丁寧に解説する。									
授業目標： 語学力を磨き、簡単な会話でも良いので、コミュニケーション力をつけると知識を理解し、学んだ日常短文を生かしてたくさんの人と会話して、気持ちを理解し合う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 中国語とは、中国語の特徴、学習方法					事前：なし 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
2	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） ピンイン（拼音）、発音。選択疑問語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
3	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 回数補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
4	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 比較表現					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
5	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「会」、「能」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
6	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 能願動詞「想」、「要」					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
7	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 方向補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
8	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 結果補語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
9	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 受身					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
10	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 使役					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
11	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 二重主語					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
12	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「就」、「才」の区別					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
13	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 「有・没有」の使用					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
14	「関口知宏の中国鉄道大紀行・秋編」ビデオ鑑賞（10分） 自己紹介文の作成					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
15	全体のまとめ					事前：予習 事後：ノート整理して復習		講義50分／演習40分	
教本： 『しっかり 初級 中国語』白水社					参考文献： 山下輝彦『中国語入門』白水社 最新版				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 言葉は歌のようなもので、まず聞いて、真似て見ることから始める。知的好奇心の幅をちょっと広げて見てください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	中国語コミュニケーション (Chinese Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	但 継 紅								
履 修 条 件	前 提 科 目	中国語 I、II 履修済みが望ましい							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要： 基本的な文法・文型を整理しながら、平易な中国語文が正確に作れるように、会話体・文章体の両面から指導する。読む・聞く・話す・書くことの指導を段階的に進めていく。より楽しく中国語を勉強ができることで、中国語のプレゼン能力を高める。									
授 業 目 標： 中国語の長文読解の応用力を養うことや、中国語を通して、中国の文化についての理解もより深くなることを目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、基礎内容の確認					事前：シラバスを確認 事後：CDを聞き、本文朗読		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分	
2	教科書の第一課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
3	教科書の第一課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分	
4	教科書の第二課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
5	教科書の第二課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分	
6	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分	
7	教科書の第三課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分	
8	教科書の第三課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
9	教科書の第四課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 ディスカッション 15分	
10	教科書の第四課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
11	復習・練習・応用会話					事前：CDを聞き、本文朗読。 事後：練習、復習		講義 20分、復習・会話・練習 50分、 答え合わせ・質問応答 20分	
12	教科書の第五課①					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
13	教科書の第五課②					事前：CDを聞き、本文朗読 事後：練習、復習		講義 30分、発音・練習 45分、 質問応答・個人指導 15分	
14	総復習：文法・練習					事前：わからない内容確認 事後：総復習		講義 (復習・説明) 30分、練習 40分、 質問応答 20分	
15	総復習：リスニング・会話					事前：復習：単語文を覚える 事後：総復習		講義 (復習・説明) 30分、発音・練習 40分、質問応答 20分	
教 本： 『楽しく学ぼう やさしい中国語』(講読編) 中国語で巡る中国文化 王 武雲ほか著 郁文堂					参 考 文 献： 授 業 中 に 適 宜 紹 介 し ま す。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到達目標が達成できたかを評価する。 授 業 へ の 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： こ の 授 業 は 中 国 語 の 初 級 内 容 を 復 習 し な が ら、中 級 へ 進 む。「中国語 I」「中国語 II」を履修したら、更に高い中国語力が身に付けられる授業である。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国文化研究A (Chinese Studies A)						科目分類	専門科目	
担当教員	但 継紅								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を知る。授業は、講義、映像資料の視聴、討論、質疑応答、発表などを組み合わせて行う									
授業目標： 中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	ガイダンス、概要				事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分		
2	中国の歴史、社会				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
3	日中関係史				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
4	日本に伝わった中国文化				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
5	さまざまな民族の生活				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
6	中国の食文化				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
7	中華人民共和国				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
8	映画を通して中国を知る①				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 20分、映画鑑賞 70分		
9	映画を通して中国を知る②				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		映画鑑賞 90分		
10	中国の思想				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
11	中国の宗教				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
12	現代の中国人の価値観				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 60分、ディスカッション・質疑応答 30分		
13	映画を通して中国を知る①				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		講義 40分、映画鑑賞 50分		
14	映画を通して中国を知る②				事前：配布資料を確認 事後：配布資料を読む		映画鑑賞 90分		
15	討論、まとめ、レポート指導				事前：レポート題名決める 事後：レポート作成		まとめ 20分、ディスカッション 30分、レポート指導 40分		
教本： 特に設定せず、各時間にプリントを配布。					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（50%）、レポート（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	中国文化研究 B (Chinese Studies B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	但 継 紅								
履 修 条 件	前提科目	「中国文化研究 A」の継続授業であるため、前期の受講が望ましい							
	そ の 他	なし							
授業概要： 中国は、地理的に日本に近く、似たような文化を持っている反面、全く異なった自然環境、歴史、文化、生活習慣、社会も併せ持っている。そのような隣国—中国の歴史、さまざまな地域・民族の文化、人々の生活様式を前期の講義で学ぶ。後期は、受講者に自分の興味や関心のあるテーマや問題を決めてもらい、個別に調べてまとめ、発表してもらう。									
授業目標： 中国の全体像を知ることによって、現代中国への理解を深め、日中文化や日中関係に対する思考力を養うことを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 受講者各自の発表テーマの相談・確認					事前：シラバスを確認 事後：配布資料を読む		ガイダンス 20分、講義 20分、ディスカッション 20分、質疑応答 30分	
2	受講者各自の発表テーマの相談・提出					事前：各自発表テーマを調べ 事後：各自発表テーマを調べ		説明 20分、個別指導 70分	
3	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
4	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
5	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
6	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
7	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
8	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
9	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
10	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
11	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
12	発表及び発表する内容に関する資料の読みや講義など					事前：配布資料を読む 事後：各自発表を準備する		発表 40分、説明・まとめ 20分、ディスカッション 30分	
13	レポート指導とレポートの提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分	
14	レポート指導とレポートの提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分	
15	まとめ、レポート指導と提出					事前：各自レポート作成 事後：各自レポート作成		レポート個別指導 90分	
教本： 特に設定せず、各時間にプリントを配布。					参考文献： 授業中に適宜紹介します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業への参加状況等（50%）、レポート（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 出席と資料の調べ、時々資料を読むことが求められます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	調査研究(フィールドワーク)(Fieldwork)						科目分類	専門科目	
担当教員	川添 裕子								
履修条件	前提科目	文化人類学関連科目							
	その他	文献読解力、アカデミックライティング技術が必要となる。授業以外に相当な時間と労力を要する。Google Classroom利用。ノートパソコン持参。							
授業概要： 「エスノグラフィック・フィールドワーク」調査法(調査法の種類と特徴、問いの設定、調査対象設定、調査計画、文献検討、先行研究分析、倫理審査、参与観察、インタビュー、フィールドノート、データ分析、報告書作成)のプロセスを習得します。									
授業目標： 1. 多様な調査法と、エスノグラフィック・フィールドワーク調査法の特徴を習得する。 2. エスノグラフィーを読み、読解し、自分の調査計画にいかすことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1・2	量的調査、質的調査およびフィールドワーク調査の特徴、プロセスを学ぶ。					事前：高校地理を振り返る 事後：Step1を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
3	エスノグラフィーを読む(学術論文、市場調査)					事前：高校地理を振り返る 事後：Step1を復習する		講義60分、 グループワーク30分	
4～6	問いと対象を立ててみる。対象に応じて調査企画案を作成する。倫理審査申請書と調査協力依頼書等、必要書類作成を学ぶ。必要書類を提出する。各自、対象に関する文献資料を収集し、発表する。調査企画とフィールドデザインする。					事前：文献資料を収集する 事後：Step1を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
7・8	参与観察法、インタビュー法、フィールドノート作成およびインターネットエスノグラフィーについて学び、履修者間でエクササイズをする。					事前：ノートを購入する 事後：Step2を復習する		実習	
9	調査企画をたてる					事前：関心テーマを絞る 事後：Step2を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
10・11	事例カード、関係図作り、概念、「KJ法」について学ぶ					事前：事例を読み込む 事後：Step3を復習する		実習	
12	概念関係図から、事例を再構成し、理論的テーマを確定する。設問、鍵概念、結論、章立て					事前：事例を読み込む 事後：Step3,4を復習する		講義60分、 ディスカッション30分	
13・14	エスノグラフィー(報告書)執筆					事前：報告書執筆 事後：コメントを反映する		講義60分、 プレゼンテーション30分	
15	発表、フィードバック					事前：プレゼン準備 事後：報告書修正		プレゼンテーション60分、 ディスカッション30分	
教本： なし					参考文献： 中葛洋『初学者のための質的研究26の教え』医学書院、¥1,800+税				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等(20%)、調査の各段階の達成・課題提出等(30%)、報告書(50%)等で総合評価します。本授業は、大学外の方々のご協力が進めていますので、全回、出席することが前提です。また信頼を損なう行為があった場合は単位判定の対象としません。									
学生へのアドバイス： 社会文化的視点からの分析、文献読解力、レポート作成力を高めたい人に勧めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	地理学 (Geography)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>地理学は系統地理学と地誌学に分かれ、系統地理学は自然地理学と人文地理学に細分化する。本授業では、系統地理学の観点から自然と人間との関わり合いと、現代世界の生活文化、地域問題の現状について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>空間スケールでの現象の多様性と相互関係性を考察する能力を習得する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：ノート整理		講義	
2	地理学とは 地理学の目的と課題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
3	地理情報と表現方法					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
4	地図の概要と地形図の読図					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
5	地球の姿と成り立ち					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
6	世界の地形① 地球規模の大地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
7	世界の地形② 河川の小地形					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
8	世界の気候 気候の成り立ちと世界の気候区分					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
9	ハザードマップ概要					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
10	わがまちのハザードマップ調査					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
11	洪水ハザードマップと日常生活、自然災害					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
12	資源と産業—工業の立地変化					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
13	世界の人口—世界の人口問題					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
14	生活文化・民俗地理—世界の食肉文化・生活と環境					事前：前回のノート整理 事後：専門用語の理解		講義	
15	まとめ					事前：前回のノート整理 事後：地域理解ができたか		講義	
<p>教本：</p> <p>なし。必要に応じてプリントを配布します。</p>					<p>参考文献：</p> <p>書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>欠席と遅刻をしないこと。様々なことに関心も持ってください。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	地理情報システム (Geographical Information Systems)						科目分類	専門科目	
担当教員	山本 美紀								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	ノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、地理情報システム (GIS) の基礎知識を学び、身の回りの事例やオープンデータを用いて、実際にGISを活用する方法を習得することを目的とします。具体的には、地図とGISの関係を理解し、地図データと地図上の事物、現象の属性データを統合してデータベース化し、それを検索、分析、可視化することを目指します。そのために、GISの基本操作、空間分析の方法を身に付けます。									
授業目標： ① GISとは何か、活用事例に関連付けて説明できる。 ② GISのデータモデル、座標系について説明できる。 ③ GISのオープンデータを活用することができる。 ④ GISの基本操作ができる。 ⑤ GISを使用して、空間分析ができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 GISとは何か、GISの活用事例を紹介する。			事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク (10分) 講義 (80分)		
2	GISのデータモデル ベクター形式のデータモデルとラスター形式のデータモデルについて学ぶ。			事前：GISのデータモデルについて下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義 (90分)		
3	GISと座標系 座標系と何か、地図とGISの座標系について学ぶ。			事前：地図とGISの座標系について下調べ 事後：ミニッツペーパー			講義 (90分)		
4	GISのオープンデータ (1) 基盤地図情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：国土地理院 Web サイトで基盤地図情報の下調べ 事後：指定する地域の基盤地図情報を地図化する			講義 (45分) 演習 (45分)		
5	GISのオープンデータ (2) 国勢調査データのダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：総務省 Web サイトで国勢調査データの下調べ 事後：指定する地域の国勢調査データを地図化する			講義 (45分) 演習 (45分)		
6	GISのオープンデータ (3) 国土数値情報のダウンロードと地図化について学ぶ。			事前：国土交通省 Web サイトで国土数値情報の下調べ 事後：指定する地域の国土数値情報を地図化する			講義 (45分) 演習 (45分)		
7	GISの基本操作 (1) プロジェクトの作成とデータの入出力について学ぶ。			事前：指定するGISについてWebサイトで下調べ 事後：基本操作の復習			講義 (45分) 演習 (45分)		
8	GISの基本操作 (2) レイヤの編集について学ぶ。			事前：レイヤについて下調べ 事後：基本操作の復習			講義 (45分) 演習 (45分)		
9	GISの基本操作 (3) 地図と属性データの結合、属性検索について学ぶ。			事前：地図と属性データの結合について下調べ 事後：基本操作の復習			講義 (45分) 演習 (45分)		
10	GISの基本操作 (4) 属性テーブル編集とフィールド演算について学ぶ。			事前：属性テーブルとフィールド演算について下調べ 事後：基本操作の復習			講義 (45分) 演習 (45分)		
11	GISの基本操作 (5) バッファの作成とオーバーレイについて学ぶ。			事前：バッファとオーバーレイについて下調べ 事後：基本操作の復習			講義 (45分) 演習 (45分)		
12	GISの課題研究：課題データのダウンロードと編集を行う。			事前：課題データのテーマを設定する 事後：課題研究を行う			講義 (30分) 演習 (60分)		
13	GISの課題研究：空間分析を行う。			事前： 事後：課題研究を行う			講義 (30分) 演習 (60分)		
14	GISの課題研究：空間分析のまとめ、レポートの作成を行う。			事前： 事後：レポートを完成させ、期限までに提出する			講義 (30分) 演習 (60分)		
15	まとめと学びの振り返りを行う。 GISが支える近未来の社会について考える。			事前：学習ポートフォリオを整理する 事後：学びの振り返り			講義 (60分) グループワーク (30分)		
教本： 授業内で指示する。 参考文献： 金 徳謙 (2022) 『これで使える QGIS 入門』 ナカニシヤ出版 ISBN : 978-4-7795-14357 その他、必要に応じて授業内で紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 学習ポートフォリオ (ミニッツペーパー、事前事後課題、振り返り等) : 60%、課題研究 : 40% で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック (評価基準) による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： スマートフォンやインターネット上に、地図が溢れている時代、それを支えるGISの仕組みを理解して、地図と情報を適切に活用することができる力は、今を生きるために求められる力といえます。この授業では、実際にGISを使用した実習が主となります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ディスカッション (Discussion)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	澤 田 帆 奈 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 :									
ディスカッションのトレーニングを行なう。グループディスカッションの手順を知る。意見の述べ方、反論のしかた、意見のまとめ(総括)のしかたを知り、トレーニングする。ディベートの実践、分析も同様に行なう。コミュニケーションにおける自己の特徴を理解し、弱点改善のためのトレーニングを行なう。									
授 業 目 標 :									
1. ディスカッションとディベートの目的や意義・方法について理解を深める。 2. 自らの立場を明確にして論理的に意見を述べるができる。 3. 中学校・高等学校国語教員志望者の教材研究に必要な知識と方法を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方) 自己評価 グループディスカッションについて (概説)					事前: シラバスを読んでくる 事後: 資料の整理と記入		講義 (30分) ・ 各自作業 (60分)	
2	自他理解を深める アイスブレイク、スモールトーク グループディスカッション 事前準備 1					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
3	傾聴(うなずき・あいづち・復唱)、議論でのルール 司会者(ファシリテーター)の役割 グループディスカッション 事前準備 2					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
4	ブレインストーミング・ブレイン・ライティング(概説) グループディスカッション 1 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (40分) ・ グループ活動 (50分)	
5	意見の述べ方 (意見と根拠 論理性) グループディスカッション 2 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
6	アイデアの広げ方 別の立場・視点から考える グループディスカッション 3 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
7	議論の整理のしかた グループディスカッション 4 (ブレイン・ライティング)					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
8	論題(テーマ)の種類 テーマ分析と論点の確認 グループディスカッション 5					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
9	意見への質問のしかた 議論の深め方 (反対意見を想定してみる) グループディスカッション 6					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
10	反論のしかた (引用、譲歩、反駁) グループディスカッション 7					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
11	意見のまとめ(総括)のしかた グループディスカッション 8					事前: 事前資料の読み 事後: 活動メモの整理記入		講義 (20分) ・ グループ活動 (70分)	
12	ディベートについて (概説) 動画視聴					事前: 配付資料の熟読 事後: ノート・資料の整理		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
13	ディベート 1					事前: なし 事後: 活動メモの整理記入		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
14	ディベート 2					事前: なし 事後: 活動メモの整理記入		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
15	全体のまとめ 事後自己評価					事前: 質問・確認の洗い出し 事後: なし		講義 (30分) ・ グループ活動 (60分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
宮内泰介著『グループディスカッションで学ぶ 社会学トレーニング』三省堂					下瀬川慧子他『日本語 口頭発表と討論の技術』東海大学出版会				
・資料とタスクシートを配付する。					中野美香著『大学生からのグループディスカッション入門』ナカニシヤ出版				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 議論への参加等の発言 (65%)、振り返りレポート・提出物等 (30%)、自己評価票 (5%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
議論することのおもしろさを経験しましょう。討論に参加する際の発言のしかたやマナーなども身につけます。積極的に議論に参加しようという心構えを持って受講してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	データサイエンス (Data Science)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかにも有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要な基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンティストとは					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	データ分析の基礎Ⅰ 可視化によるデータ分析					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	データ分析の基礎Ⅱ クロス集計によるデータ分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	単回帰分析 データ分析の基本手法である単回帰分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	重回帰分析-1 複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	重回帰分析-2 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	判別分析 機械学習に活用される判別分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	数量化理論Ⅰ類-1 定性的なデータを説明変数（要因）とする回帰分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	数量化理論Ⅰ類-2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論Ⅰ類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	数量化理論Ⅱ類-1 定性的なデータを説明変数（要因）とする判別分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	数量化理論Ⅱ類-2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論Ⅱ類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰&数量化理論Ⅰ類混合モデルとその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	ロジスティック回帰分析 機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	コンジョイント分析 商品開発に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンスの統計学 (Statistics for Data Science)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： 近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。									
授業目標： 統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	確率変数と期待値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	確率変数と期待値 2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
10	区間推定-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	区間推定-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
14	有意差検定-1-等平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
15	有意差検定-2-母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
教本： 講義初回のガイダンスで指示する。					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データサイエンス I (Data Science I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授 業 概 要 :									
近年、ビッグデータやデータサイエンティストというキーワードが着目されているが、その本質はデータ分析技術だけでなく、ビジネス課題における意思決定にいかにも有効に活用することができるかが重要なポイントである。本講義では、データサイエンスに関連する技術動向について学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要な基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データサイエンス関連技術動向、データサイエンティストとは					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	データ分析の基礎 I 可視化によるデータ分析					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
3	データ分析の基礎 II クロス集計によるデータ分析					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
4	単回帰分析 データ分析の基本手法である単回帰分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	重回帰分析 - 1 複数の要因分析と予測を目的とした重回帰分析とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	重回帰分析 - 2 複数のサンプルデータを用いた重回帰分析の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	判別分析 機械学習に活用される判別分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
8	数量化理論 I 類 - 1 定性的なデータを説明変数 (要因) とする回帰分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	数量化理論 I 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 I 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
10	数量化理論 II 類 - 1 定性的なデータを説明変数 (要因) とする判別分析手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	数量化理論 II 類 - 2 複数のサンプルデータを用いた数量化理論 II 類の適用方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	複数の手法を組み合わせた分析 重回帰 & 数量化理論 I 類混合モデルとその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
13	ロジスティック回帰分析 機械学習に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
14	コンジョイント分析 商品開発に活用される代表的な分析手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
15	実データ演習 公開データの入手、分析、評価、考察					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
指定しない					講義内で指示する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データ処理 (Data Processing)						科 目 分 類	基礎科目 (メディア以外) 専門科目 (メディア)	
担 当 教 員	井上明也・金 宰部・山本美紀								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎／情報処理概論							
	そ の 他	※「学生へのアドバイス」参照							
授業概要： 主に表計算ソフトを利用して、コンピュータにおけるデータ処理・分析について学習する。									
授業目標： 表計算ソフトの操作に習熟し、表やグラフのデータ表現や関数等を利用したデータ処理・分析の手法を身につけることが本講義の目標となる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの確認、データの種類とデータ処理・分析の概説					事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習		講義 60分、演習 30分	
2	表計算ソフトの基本操作と作表の基礎					事前：ファイル形式について調べる 事後：作表課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
3	数式と基本関数の利用					事前：基本関数について調べる 事後：関数利用課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
4	数式と絶対／相対参照					事前：参照について調べる 事後：複合参照課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
5	グラフの作成					事前：グラフの種類について調べる 事後：グラフ課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
6	表示形式の設定					事前：表示形式について調べる 事後：ユーザ定義表示形式課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
7	複数シートの操作					事前：シートの操作について調べる 事後：複数シート課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
8	高度な関数の利用					事前：様々な関数について調べる 事後：関数課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
9	条件付き書式					事前：条件付き書式について調べる 事後：条件付き書式課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
10	データベースの利用					事前：データベースについて調べる 事後：データベース課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
11	ピボットテーブル					事前：ピボットテーブルについて調べる 事後：ピボットテーブル課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
12	高度なグラフの作成					事前：複合グラフについて調べる 事後：高度なグラフ課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
13	マクロの利用					事前：マクロについて調べる 事後：マクロ課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
14	外部データの利用					事前：データの取り込みについて調べる 事後：外部データ課題を完成する		講義 45分、演習 45分	
15	まとめ、総合練習問題					事前：総合練習問題を練習する 事後：総合練習課題を完成する		講義 60分、演習 30分	
教本： 講義内で指示する					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内での演習及び小テスト (50%)、提出課題 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、USBメモリ等、ファイルを保存する手段を各自用意して下さい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義と演習
授業科目(英文)	データ処理入門 (Introduction to Data Processing)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菊地 創								
履 修 条 件	前提科目	心理統計法を履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 心理学研究で使用される基本的な統計分析手法を表計算ソフト (MS Excel) などを用いて学ぶ。統計学の理論に関する学習だけでなくサンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。また、分析結果の意味を正しく理解し、その結果を的確にまとめるトレーニングを行う。									
授業目標： ①表計算ソフトなどを用いて基礎的な統計分析を行うことができるようになる。 ②分析結果の意味を正しく読み取ることができるようになる。 ③分析結果のまとめ方、心理学研究論文での記載方法を習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	心理学で使用するデータや尺度について学ぶ。					事前：シラバスの確認 事後：練習問題の復習		講義 90分	
2	記述統計量について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：心理統計法の復習 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
3	欠損値処理や天井効果・床効果について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
4	図表の作成について学ぶ。サンプルデータなどを用いて、実際に図表を作成する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
5	相関分析について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
6	推定や信頼区間について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
7	分散の等質性の検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
8	対応のないt検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
9	Welch 検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
10	対応のあるt検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
11	独立性の検定について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
12	3つ以上の平均値の差の検定 (1要因の対応なし) について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
13	3つ以上の平均値の差の検定 (1要因の対応あり) について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
14	回帰分析について学ぶ。サンプルデータなどを用いて実際に分析作業を体験する。					事前：配布資料の精読 事後：練習問題の復習		講義 45分 実習 45分	
15	理解度の確認					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義 45分 実習 45分	
教本： 授業プリントと関連資料の提供。					参考文献： 「数学が苦手でもわかる心理統計法入門」芝田征司 (著) サイエンス社				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 受講の態度やマナーに留意すること。講義では表計算ソフト (MS Excel) のインストールされたパソコンを必ず持参すること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	データマイニング (Data Mining)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	井上 明也								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	EXCEL が使用できるノートパソコンを用意すること							
授業概要： 「データマイニング」とは多量のデータから新たな知見・知識を得ることを意味する。「マイニング」とは「採鉱」であり、語源の通り鉱山から金鉱を掘り当てるといった行為に似た作業である。本講義では「データマイニング」とはなにか、その実現技術とはどのようなものかを学ぶとともに、サンプルデータによる演習課題を通して、データ分析に必要となる基礎技術とその活用法を学ぶ。									
授業目標： どのようなデータをどのような手法により処理・分析し、得られた結果をどのように解釈するか、という一連の流れを理解する。基本的な課題に対して、自分自身で一連の流れに沿った処理を実行できる能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、データマイニングとは データマイニングの登場、発展の背景と現状について理解する					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	処理プロセスとデータ分析手法の基礎 データ分析の処理プロセスと分析手法の概要を理解する					事前：前回の資料を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
3	データ分析の基礎 1 分析目的に適したデータのグラフ化、可視化手法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
4	データ分析の基礎 2 基本統計量とヒストグラムによる分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
5	データ分析の基礎 3 パレート図によるデータ分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
6	データ分析の基礎 4 分析データの抽出方法、クロス集計データの分析方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
7	データ分析の基礎 5 相関の意味理解と相関係数の算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
8	データ分析の基礎 6 単回帰分析の意味理解と単回帰式の算出方法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
9	データ分析演習 1 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
10	データ分析演習 2 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
11	データ分析演習 3 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
12	データ分析演習 4 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
13	データ分析演習 5 サンプルデータを用いた演習による分析の意味と活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
14	データマイニング手法と適用事例 アソシエーション分析、バスケット分析等の手法とその活用法					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 60 分 演習 30 分	
15	データマイニング技術の動向と最終課題 関連技術の体系的紹介と最新技術動向、最終演習課題の実施					事前：前回の資料と課題を復習する 事後：資料と課題を復習する		講義 30 分 演習 60 分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
成績評価の方法、評価基準： 演習課題・レポート等（100%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	データモデリング (Data Modeling)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山 本 美 紀								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	Microsoft Access がインストールされたノートパソコンを用意すること。							
授業概要： この授業では、データモデリングの枠組みについて学び、社会にあふれている膨大なデータを一定のルールに基づいて整理し、価値ある情報にするためのデータモデリングの手法を身に付けます。また、データベースを操作するためのSQLの基礎を学び、実際に、データモデリングによってデータベースを構築することを目指します。									
授業目標： ①データベースモデリングとは何か、システム開発のプロセスに対応づけて説明できる。 ②概念データモデリング、論理データモデリング、物理データモデリングで用いる手法について説明できる。 ③SQLを用いてデータベースの基本操作ができる。 ④社会のある事象に注目して、実際にデータモデリングを行い、自分の知りたい情報を得ることができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）				事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）			授 業 形 態	
1	授業の概要と目的、進め方、評価方法等について説明する。 データベースモデリングとは何か、について学ぶ。				事前：シラバスを読む 事後：ミニッツペーパー			アイスブレイク（10分） 講義（80分）	
2	データベースとリレーショナルデータベースについて学ぶ。				事前：DBの種類を調べる 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
3	概念データモデリング（1）エンティティと属性について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
4	概念データモデリング（2）ERモデルについて学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
5	論理データモデリング（1）正規化について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
6	論理データモデリング（2）テーブルとビューについて学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
7	物理データモデリング（1）非正規化について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義・演習（60分） 小テスト（30分）	
8	物理データモデリング（2）インデックスと領域について学ぶ。				事前：下調べをする 事後：ミニッツペーパー			講義（60分） 演習（30分）	
9	SQLによる演習（1）① データベースの作成と削除、② テーブルの作成と削除、更新について学ぶ。				事前：SQLについて下調べ 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
10	SQLによる演習（2）① 主キーと外部キーの制約、② レコードの追加と削除、更新について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
11	SQLによる演習（3）SELECT文の基本構文について学ぶ。				事前：配布資料を読む 事後：SQLの演習問題			講義（45分） 演習（45分）	
12	期末課題：概念データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
13	期末課題：論理データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題			講義（30分） 演習（60分）	
14	期末課題：物理データモデリングを行う。				事前：配布資料を読む 事後：期末課題を完成させ、期限までに提出する			講義（30分） 演習（60分）	
15	まとめと学びの振り返りを行う。 データベースとプログラムを連携した事例について紹介する。				事前：学習ポートフォリオ整理 事後：学びの振り返り			講義（60分） グループワーク（30分）	
教本： 指定しない。 必要に応じて授業内で資料等を配布する。					参考文献： 授業内で参考文献、Webサイト等を紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 学習ポートフォリオ（ミニッツペーパー、演習問題、振り返り等）：60%、小テスト：10%、期末課題：30%で総合評価する。 ※学習ポートフォリオは、ルーブリック（評価基準）による自己評価を含む。									
学生へのアドバイス： この授業では、データモデリングの基礎的な知識を学ぶだけでなく、積極的に演習を行って、データモデリングのセンスを身に付けてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル技術と産業 I (Digital Technology and Industry I)						科目分類	専門科目	
担当教員	飯島 祥二								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深めることにより観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。そのために、観光産業の「観光学の枠組みでの位置づけ」・「新たな観光産業の形態」や「観光産業とその他のセクターとの関係性」について講義をする。当該講義は、MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) や DMO (Destination management organization) に言及し、問題解決的学修 (PBL) に関する方法にて今後の観光産業の有り方を論ずる。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示する。									
授業目標： (1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 新たな観光産業の形態や産業とその他のセクターとの融合や関係性について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義 90分	
2	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけと観光学のその他の領域との関連性 (Morley(1990)を中心に)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類 (観光学における関連性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	持続可能観光の伸長と観光産業の形態 (持続可能観光の具体的事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	ニューツーリズムと旅行産業 (1) (その特性と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	ニューツーリズムと旅行産業 (2) (ケーススタディー [自然資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
7	ニューツーリズムと旅行産業 (3) (ケーススタディー [歴史・文化資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
8	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (1) (意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
9	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (2) (MとIの概念、取り組み主体、業界、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (3) (CとEの概念、取り組み主体、業界構成、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	DMO (Destination management organization) (1) (ディスティネーションマネジメントとの意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	DMO (Destination management organization) (2) (ディスティネーションマネジメントと資源管理)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	DMO (Destination management organization) (3) (観光産業振興・観光地計画への役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	今後の観光産業の課題とビジョン					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	デジタル社会とコミュニケーション (Digital Society and Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 本講義は、社会とりわけ情報社会を理解した上で、コミュニケーション技術の基礎とそれに関わる社会現象上の諸問題を、多角的に理解する。また、企業、個人、地域社会、自治体、マスコミ、それぞれの立場に立った上でのコミュニケーションについて、議論により理解を深める。									
授 業 目 標 : 現代社会のコミュニケーションについて、コミュニケーション技術の基礎を理解し、自分自身がその情報コミュニケーション能力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス (産業社会とメディアの変容)					事前：なし 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
2	「対人コミュニケーションの不確実性」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (115-124) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
3	「選択される情報と現実」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (125-137) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
4	「技術の進歩と社会の適応問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (138-147) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
5	「情報の格差問題」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (148-158) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
6	「生活世界と情報モラル」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (159-168) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
7	「ネット世界の人間関係」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (169-180) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
8	「情報社会のなかの人間」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (181-190) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
9	「非認知能力1」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (1-100) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
10	「非認知能力2」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (101-180) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
11	「非認知能力3」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (181-253) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
12	「技術からの価値の獲得」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (25-39) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
13	「デザインのプロセス」について学習した内容をもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。					事前：精読 (40-68) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
14	「アバター」について学習した内容をもとに、制作し発表する。					事前：精読 (169-180) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
15	「メタバース」について学習した内容をもとに、メタバース内イベントを制作し、発表する。					事前：精読 (181-190) 事後：議論レポートの作成		講義 45分 ディスカッション 45分	
教 本 : 『情報社会とコミュニケーション技術』 (明石書店)					参 考 文 献 : 『非認知能力』 (北大路書房) 『実践デザインマネジメント』 (東京電機大学出版局)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必ず事前にテーマについて調査の上、参加するようにしてください。また、PCを用意の上、参加してください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル社会と人間 (Digital Society and Human Beings)						科目分類	専門科目	
担当教員	金澤 秀嗣								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>講義においてはデジタル社会を必ずしも自明なものとしてと看做さず、アナログ社会をも含めた視座から、人間と社会に関する理論を俯瞰する。そのうえで、履修者が各々考察を加え、意見を提起してもらいたい。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>デジタル・アナログを問わず、社会における人間の在り方とそれに附随する諸問題をトータルに把握することを目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	講義の導入：「デジタル社会と人間」概説					事前：講義に臨む準備をする。 事後：講義内容を纏める。		講義 90分	
2	〈欠陥動物〉としての人間と制度・文化 Arnold Gehlen と哲学的人間学					事前：Gehlen について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
3	〈システム〉による「複雑性の縮減」効果 Niklas Luhmann とシステム論					事前：Luhmann について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
4	デジタル社会においては伝統的教養が不要となるか Pierre Bourdieu と文化社会学 ①					事前：Bourdieu について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
5	デジタル社会は階層格差を解消するか Pierre Bourdieu と文化社会学 ②					事前：「文化資本」について調べる。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
6	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ①					事前：Rawls について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
7	デジタル社会において〈公正〉は可能か John Rawls の Liberalism と正義論 ②					事前：AA について調べる。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
8	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ①					事前：Libertarianism 概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
9	デジタル社会は〈自由〉を保障しうるか Libertarian の人間観と社会観 ②					事前：Libertarianism の諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
10	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ①					事前：Communitarianism 概念について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
11	デジタル社会における〈共同〉 Communitarian の人間観と社会観 ②					事前：Communitarianism の諸態様について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
12	デジタル社会と自己決定権 法学上の Paternalism とその正当化事由					事前：Paternalism について調べておく。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
13	デジタル社会と自己決定権 臓器提供意思表示方式の事例から					事前：臓器移植について調べる。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
14	デジタル社会と自己決定権 行動経済学・「nudge 理論」に対する批判的考察					事前：「nudge 理論」について調べる。 事後：講義内容を纏める。		講義 60分 演習 30分	
15	講義の総括と展望					事前：これまでの講義内容を纏める。 事後：試験の模範解答を作成する。		講義 90分	
教本： 特に定めない。講義に際してはレジュメを配布する。					参考文献： 必要に応じて教場にて紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）の成績による。									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪失、「不可」の評価が下される。なお、履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタル社会論 (Digital Society)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： デジタル社会という言葉が広く使われています。しかし、その実際の姿はどのようなものなのでしょうか？この講義では、最近のデジタル社会の議論に触れながら、その社会について様々な角度から考察を試みます。後半は社会学の視点から、デジタル社会とそれ以前の社会を比較分析する視点を養い、幅広くデジタル社会に関わるための見識を身に付けます。									
授業目標： ①デジタル社会の様相について多角的に分析できる。 ②社会学の視点からデジタル社会とそれ以前の社会を比較できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：なぜ「デジタル社会」を学ぶか？					事前：各自の関心を高める 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
2	日本における「デジタル社会論」：最近の議論とその限界					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
3	デジタル技術・デジタル化の特徴 ①					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
4	デジタル技術・デジタル化の特徴 ②					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
5	デジタル技術の社会への当てはめで何が起るか ①					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
6	デジタル技術の社会への当てはめで何が起るか ②					事前：教科書指定個所学習 事後：講義復習		講義 45分 対話式 45分	
7	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分	
8	従来の社会的相互作用の姿（伝統的社会、工業化社会等）					事前：教科書指定個所学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
9	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
10	デジタル社会の社会的相互作用：自己、シンボル、ドラマ化 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
11	情報とデジタル社会：フェイクニュース等					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
12	ミニ・プレゼンテーション					事前：プレゼン準備 事後：指摘箇所確認		対話式 90分	
13	AIとデジタル社会 ①					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
14	AIとデジタル社会 ②					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
15	まとめ					事前：配布教材学習 事後：配布教材学習		講義 45分 対話式 45分	
教本： 「デジタル社会」とは何か（学習の友社）¥1,760					参考文献： 超デジタル世界（岩波新書）¥840				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（50%）で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教科書は前半の講義に使います。購入しない場合、受講は控えてください（参考文献も、できれば参照しておくとも知識が増えます。やや雑学的ではありますが重要な知見もあります。）。後半は、講義での配布物、視聴覚教材等で進行します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	デジタルとエンターテインメント産業 (Digital Game Industry)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	真保 安一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>日本のゲーム産業の誕生から現在までの経緯を通じて、ゲームの歴史とその変遷を理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11回からはゲームの成長とコミック・アニメ等の他のメディアとの提携を通じてデジタル産業の拡大について学びます。 ・15回はゲームのプロジェクトの立ち上げ方についての序章となっています。 <p>授業目標：</p> <p>ゲーム産業の成り立ちを理解し、日本におけるゲーム産業の立ち位置を他のメディアとの関わりの中で認識する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ゲーム産業の歴史01：概観を講師のキャリアとともに振り返る。自分のゲーム経験をもとに、クラスのゲームに対する共通体験を認識する。					事前：自分のゲーム体験を振り返っておきましょう 事後：ゲーム産業の歴史における自分の立ち位置を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
2	ゲーム産業の歴史02：米国のアタリショックと日本のアーケード スーパーマリオ誕生までの産業史的な流れを学び、当時の技術のレベルを認識する。					事前：80年代前半の北米のゲーム産業を調べておく 事後：スーパーマリオ誕生の世界史的な流れを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
3	ゲーム産業の歴史03：ファミコンが爆発的に売れた時、業界内では何があったのか。スーパー・ファミコンの登場が社会になにをもたらしたのかを学ぶ。					事前：ファミコンの代表的なタイトルを調べておく 事後：スーパーファミコンにおける任天堂の戦略を200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
4	ゲーム産業の歴史04：95年とは何だったのか？ PC ノベルゲームの終焉。95年の世界的な位置付けを学ぶ。					事前：95年のIT情勢を調べておく 事後：インターネット登場の影響を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
5	ゲーム産業の歴史05：セガとソニー その他のハードの乱立。群雄割拠となった各社のハード戦略を学ぶ。					事前：セガのハード、ソニーのプレステについて調べる 事後：各社のハード戦略について200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
6	ゲーム産業の歴史06：任天堂 VS SONY 2強時代へ。現在まで続くハードメーカーの戦略について学ぶ。					事前：任天堂のハードについて調べる 事後：任天堂のハードの歴史について200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
7	ゲーム産業の歴史07：モバイルゲームの台頭 モバゲー対GREE ガチャ規制など、ゲーム業界の大きな変革期の背景と影響について学ぶ。					事前：2010年前後のモバイルゲームについて調べる 事後：携帯ゲームの当時の社会への影響を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
8	ゲーム産業の歴史08：スマホネイティブアプリの闇 バズドラとモンハン 日本の敗北。スマホネイティブ・アプリとは何か。それまでとどう違ったのかを学ぶ。					事前：スマホ・アプリに関する自分の体験を振り返っておく 事後：現在の世界的な情勢・今後の展開を200字にまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
9	ゲーム産業の歴史09：e-sports と Steam 配信コンテンツの時代。現代世界を席巻している Steam と日本では遅れ気味の e-sports に関して知見を深める。					事前：現在の Steam の世界情勢を調べておく 事後：将来の展開を200字で予想する		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
10	ゲーム産業の歴史10：女性向けゲーム 恋愛ゲーム概論。一つのジャンルとして成立した女性向けゲームの特殊性と、ジャンル分けについて学ぶ。					事前：女性向けゲームについてどんなものがあるか調べておく 事後：何が特殊でどう違うのかを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	
11	ゲームにおけるメディア連携01：どうして連携は必要だったのか？日本のエンターテインメント全体を俯瞰して、ゲームの位置付けと連携について学ぶ。					事前：ゲームにおける他メディアとの連携例を調べておく 事後：なぜ必要だったのかを200字でまとめる		講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分	

12	ゲームにおけるメディア連携02：IPとキャラクター・グッズ、CD、主題歌他。エンターテインメントのあらゆる方向に拡張していくゲームIPの姿を把握する。	事前：自分でもっているグッズ等を振り返っておく 事後：IPがどのように訴求していくのか200字にまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
13	ゲームにおけるメディア連携03：アニメ化、映画化、イベント事業。もっとも大きなメディアミックスといわれるアニメ、映画の映像化に関してその是非をディスカッションする。	事前：自分で見たことのあるゲーム関連アニメを調べておく 事後：成功例となった要因を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
14	ゲームにおけるメディア連携04：プレイ動画、Vtuber、Youtuberの時代へ。現在隆盛を極める、Tuber系のメディアにおけるゲームの位置付けと役割をディスカッションする。	事前：何本かゲームのプレイ動画を視聴しておく 事後：今後の発展可能性を200字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
15	ゲームの作り方 序章：ゲームを起ち上げる。ゲームを作り始めるには、まず何をどうすればいいか、講師の経験をもとにディスカッションを行い、半期のゲームの授業を振り返る。	事前：自分で作るならどのようなゲームがいいか考えておく 事後：半期の授業の感想を250字でまとめる	講義 40分/ ディスカッション 30分/ 発表 20分
教本： 特になし		参考文献： 特になし	
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（70%）、小テスト・レポート等（30%）で総合評価する。			
学生へのアドバイス： 日本が誇るゲーム産業の歴史を、ゲーム業界で35年間、実際に開発をしてきた講師の体験と知識に基づき学んでいきます。11回からは各種メディアとゲームの連携。最後はゲームの作り方にふれる予定です。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	デジタル認証技術基礎 (Basic Digital Authentication Technology)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	金 幸 都									
履 修 条 件	前提科目	情報処理概論								
	その他	なし								
授業概要： 現代社会においてデジタル認証技術は、情報システムや情報資産を維持・管理するために、さまざまな危険・脅威から保護するか定め運用・管理する一連のプロセスのことを言う。この授業では情報セキュリティ対策を実施するうえで、どのような情報をどのように保護していくかを定めた基本方針のことを学習しながらデジタル認証技術基礎を習得する。										
授業目標： 1. インターネットに代表されるデジタル認証技術、情報通信技術の現状を理解し、情報化社会における情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護等について幅広く学ぶ。2. デジタル認証処理の基礎技術を学び、その応用力を身につける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得				思考力・判断力・表現力の育成				学びに向かう力・人間性の涵養		
○				◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）				授業形態	
1	ガイダンス、授業科目名であるデジタル認証について説明し、確認をする。				事前：教科書の準備をする。 事後：認証関連書を調べる。				講義 80分、ディスカッション 10分	
2	デジタル認証技術において数学的準備である情報（数値データ）のデジタル化を説明し、数値データ表現の課題を行う。				事前：n 進数について調べる。 事後：数値データ化を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
3	デジタル認証技術において数学的準備である情報（文字データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：文字データを調べる。 事後：文字データ化を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
4	数値、文字データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：バイナリデータを調べる。 事後：バイナリデータを纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
5	デジタル認証技術において数学的準備である情報（画像データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：画像データを調べる。 事後：画像データ化を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
6	デジタル認証技術において数学的準備である情報（音声データ）のデジタル化を説明し、文字データ表現の課題を行う。				事前：音声データを調べる。 事後：音声データ化を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
7	画像、音声データのデジタル化の課題についてディスカッションを行い、発表を行う。				事前：RGB, CMYK を調べる。 事後：RGB, CMYK を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
8	情報セキュリティにおけるデジタル認証技術の概要、動向、及び次世代デジタル認証技術を説明し、課題を行う。				事前：認証技術について調べる。 事後：デジタル認証技術の概要、動向を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
9	デジタル認証技術であるメッセージ認証子（MAC）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：MAC について調べる。 事後：MAC を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
10	デジタル認証技術であるハッシュ（Hash）について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：ハッシュ値を調べる。 事後：ハッシュ値を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
11	デジタル認証技術であるデジタル署名について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：デジタル署名を調べる。 事後：デジタル署名を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
12	デジタル認証技術である多要素認証について説明し、プログラミングを通じてその技術を確認する。				事前：多要素認証を調べる。 事後：多要素認証を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
13	デジタル認証技術である生体認証について説明し、映像を見ながらディスカッションを行い、その課題を行う。				事前：生体認証を調べる。 事後：生体認証を纏める。				講義 40分、ディスカッション 30分、課題 20分	
14	インターネット社会の情報セキュリティインターネット事件の最近の事例を説明し、それについてディスカッションを行う。				事前：情報セキュリティ事件の事例を調べる。 事後：事例を纏める。				講義 60分、ディスカッション 30分	
15	デジタル認証技術について纏める。デジタル認証技術の授業科目について感想を発表する。				事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り。				講義 50分、発表 40分	
教本： なし					参考文献： なし					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（40%）、課題（40%）、発表（20%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 初回の授業に必ず出席すること。認証技術の基礎知識（定義）を事前に調べること。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	哲学 (Philosophy)						科目分類	基礎科目	
担当教員	金澤 秀嗣								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即しトータルに把握できるよう講義を進めたい。</p>									
<p>授業目標： 講義「哲学」では、古代から中世へ至る哲学史の系譜をたどり、〈存在論〉の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	予備考察：哲〈学〉と哲〈学史〉の相同について考察する。					事前：特になし 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
2	【古代哲学】存在・「ある」とはどういうことか： ミレトス学派の〈アルケー〉論を紹介する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
3	生成「ある」と「なる」： エレア学派とヘラクレイトスの相違を明らかにする。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
4	ピュタゴラス学派の〈数〉概念を分析する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
5	多元論・原子論に関する理解を促す。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
6	ソフィストの営為とその特徴を俯瞰する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
7	ソクラテスによるソフィスト批判について吟味する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
8	プラトン〈イデア〉論の特質を浮き彫りにする。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
9	アリストテレス形而上学①について検討する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
10	アリストテレス形而上学②について検討する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
11	【中世哲学】信仰と知は両立するか： 中世教父哲学における神概念と人間像①を考察する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
12	中世教父哲学における神概念と人間像②を考察する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
13	普遍が先か個物が先か：〈普遍論争〉について詳述する。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
14	スコラ哲学の論理①を学ぶ。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
15	スコラ哲学の論理②を学ぶ。					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義 90分	
<p>教本： なし。毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。</p>					<p>参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験（100%）で評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 私が提供するものは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 木曜日昼休み。</p>									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	デュアルキャリアマネジメント (Dual Career Management)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野々村 新								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 本授業においては、生涯キャリア発達の視点から、前半ではキャリア発達およびキャリア形成に関する指導・支援の在り方について理解し、後半では、個別ワークも行いながら学生諸君のキャリアデザインについて学ぶ。									
授業目標： 1. キャリアおよびキャリアの発達について理解する。 2. キャリアデザインの意義とその方法を理解し、自己のキャリア形成の基本的枠組みを習得する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業内容、形式等の説明）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	キャリアの概念とキャリア観の変化の説明を行う。					事前：なし 事後：講義内容の整理		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	キャリア発達とキャリア発達課題の意義と、発達課題達成を検討する。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 90分	
4	キャリア発達とキャリア教育(1)自己分析、進路情報、啓発的経験の説明を行う。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 90分	
5	キャリア発達とキャリア教育(2)キャリアカウンセリング、追指導等の説明を行う。					事前：4回のまとめ 事後：講義内容の整理		講義 90分	
6	成人のキャリア形成の必要性を具体例に基づいて説明する。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 50分、 ディスカッション 40分	
7	社会に出るための準備について説明を行う。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 90分	
8	学生時代にすべきことについて説明を行う。					事前：7回のまとめ 事後：講義内容の整理		講義(40分) 演習(40分)	
9	キャリアをデザインする—職業理解と自己分析の必要性を検討する。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 90分	
10	職業と働き方についての理解を促す。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 90分	
11	自己分析(1) 知能、適性、創造性の理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	自己分析(2) 興味、価値観の理解					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義(40分) 演習(40分)	
13	自己分析(3) 性格の理解 性格検査を実施する。					事前：配布資料の確認 事後：講義内容の整理		講義 50分、 ディスカッション 40分	
14	心理検査（適性検査）の実施 適性検査を実施する。					事前：11回～13回のまとめ 事後：自己分析のまとめ		講義 90分	
15	まとめ					事前：全体の整理 事後：全体のまとめ		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教本： プリントを配布する。					参考文献： 適時提示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況、小テスト・レポート等の結果を加味して総合評価する。									
学生へのアドバイス： 自分自身が社会人になるための準備、将来の生き方という重要なテーマに意欲的に取り組んで欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	伝統文化 (Introduction to Japanese Tradition and Culture)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	石井 みどり								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 日本人は、海に囲まれた島国で、四季折々の豊かな自然とともに暮らしてきました。有形、無形を問わず、世代を超えて受け継がれてきた文化がたくさんあります。本講義では、日本人の日常生活の中にある伝統文化を学んでいきます。									
授業目標： 伝統文化の知識を習得し、その背景にあるものは何か、理解を深めることを目的としています。伝統文化には、日本人のどんな気持が込められているのでしょうか。みなさんは、日本の伝統文化の担い手として、これから何を表現していきますか？									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：伝統文化を学ぶ必要性		講義 90分	
2	「和」の伝統文化とは何か					事前：伝統文化とは何か 事後：「和」の十七条憲法		講義 90分	
3	食の文化 ① 和菓子					事前：和菓子の種類 事後：和菓子の歴史と文化		講義 60分 グループワーク 30分	
4	食の文化 ② カレーライス					事前：洋食の種類 事後：洋食の歴史と文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
5	食の文化 ③ 鯨					事前：鯨の料理 事後：鯨の文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
6	折紙の文化					事前：折紙を折る 事後：折紙の歴史と文化		講義 50分 グループワーク 40分	
7	うつろ舟の伝説					事前：身近にある伝説 事後：伝説とは何か		講義 60分 ディスカッション 30分	
8	言葉とは何か					事前：大学生の言葉 事後：言葉とは何か		講義 90分	
9	こどもの遊び 「どちらにしようかな」					事前：こどもの頃の遊び 事後：手遊びの楽しさ		講義 50分 グループワーク 40分	
10	江戸時代の旅と伊勢参り					事前：江戸時代について 事後：旅は「見る」こと		講義 60分 ディスカッション 30分	
11	明治時代の改暦と鉄道の発展					事前：幕末から明治の幕開け 事後：時刻と鉄道の発展		講義 60分 ディスカッション 30分	
12	元三大師とおみくじ					事前：おみくじについて 事後：元三大師とおみくじ		講義 50分 グループワーク 40分	
13	製糸女工から見る労働者の文化					事前：大学生のアルバイト 事後：労働者の文化		講義 60分 ディスカッション 30分	
14	神と神社の成り立ち					事前：神社について 事後：神と神社の成り立ち		講義 60分 ディスカッション 30分	
15	まとめ					事前：伝統文化とは何か 事後：伝統文化を学ぶ必要性		講義 90分	
教本： 資料を配布するので、教科書は指定しません。					参考文献： 適宜、指示します。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（40%）、授業中の課題、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 文字だけで判断するのではなく、日本文化の本質を理解するよう心がけてください。									
オフィスアワー： 初回の授業で教えます。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	ドイツ語 I (German I)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	金 澤 秀 嗣								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	「ドイツ語 II」を次学期に必ず履修すること (単位を修得できなかった場合はこの限りではない)。							
授 業 概 要 : 本講は初学者を対象とし、ドイツ語の総合的な能力を習得する。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪失、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。									
授 業 目 標 : 初級文法の基礎を習得し、ドイツ語技能検定試験・5級に合格するレベルへ到達する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Das Alphabet					事前：教科書該当部分の精読 事後：文字の復習		講義 30分 演習 60分	
2	Aussprache (発音) ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習		講義 30分 演習 60分	
3	Aussprache (発音) ②					事前：教科書該当部分の精読 事後：発音の復習		講義 30分 演習 60分	
4	人称代名詞と不定詞・動詞の現在人称変化/動詞の位置・語順					事前：教科書該当部分の精読 事後：代名詞・動詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
5	sein の現在人称変化/Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
6	名詞の性/名詞の格/冠詞の変化					事前：教科書該当部分の精読 事後：性と格変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
7	haben の現在人称変化/Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
8	名詞の複数形/男性弱変化名詞と例外的な名詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：弱変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
9	人称代名詞の3・4格/Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
10	不規則動詞の現在人称変化/命令形 ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：人称変化の暗記		講義 60分 演習 30分	
11	不規則動詞の現在人称変化/命令形 ②/Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
12	不定冠詞類 (所有冠詞・否定冠詞)					事前：教科書該当部分の精読 事後：不定冠詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
13	定冠詞類/Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
14	前期確認問題：					事前：教科書該当部分の精読 事後：確認問題の再点検		講義 30分 演習 60分	
15	前期確認問題の解答と解説/定期試験対策					事前：確認問題の再点検 事後：定期試験対策準備学習		講義 30分 演習 60分	
教本：以下2冊を初回授業までに購買部で必ず購入しておくこと。					参考文献：				
1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860					教本・辞典のほかは特に用いない。				
2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験 (100%) の成績による。									
学生へのアドバイス： ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語群に属する言語である。ゆえに英語を苦手とする者がドイツ語を履修するにあたっては、相当の覚悟が求められる。単に曜日・時限の都合のみで履修選択した場合、単位の修得は極めて困難となろう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語 I (German I)						科目分類	基礎科目	
担当教員	関口 宏道								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： コミュニケーションは会話のみならず、相手を理解し、自らを理解して貰うための努力の上に成立するものである。そのため、まず相手に理解して貰えるように、出来るだけ正確な発音を徹底的に繰り返し練習する。その上で相手との簡単な挨拶、簡単な表現を学び、反復することでコミュニケーション能力を高める。またドイツ語の構造がどのようになっているかを理解するようにする。ドイツ語自体への関心（言葉の起源や由来、社会の中での意味など）を深め、さらに言語を通してドイツ社会、ドイツ語圏の世界の理解を深める。									
授業目標： 1. 言語運用能力が習得できる。 2. 初級文法前半の知識が習得できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定5級合格を目指すことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	アルファベットの発音練習と文字の練習 (1)			事前：なし 事後：発音と文字の練習			講義 60分 演習 30分		
2	アルファベットの発音練習と文字の練習 (2)			事前：なし 事後：聞き取り練習			講義 60分 演習 30分		
3	規則変化動詞の現在人称変化の練習自己紹介をする			事前：なし 事後：規則変化動詞の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分		
4	現在人称変化の練習と重要な動詞について趣味を言う			事前：なし 事後：不規則変化動詞の練習、読解			講義 60分 演習 30分		
5	名詞の性と定冠詞の格変化 性質の描写			事前：なし 事後：定冠詞の格変化の練習			講義 60分 演習 30分		
6	定冠詞と不定冠詞の格変化 (1)			事前：なし 事後：格変化の練習			講義 60分 演習 30分		
7	定冠詞と不定冠詞の格変化 (2) 持ち物を言う 中間テスト			事前：なし 事後：定冠詞、不定冠詞の格変化の復習、読解			講義 60分 演習 30分		
8	不規則変化動詞の人称変化 (1) 名詞の複数形			事前：なし 事後：規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分		
9	規則変化動詞と不規則変化動詞の人称変化の練習			事前：なし 事後：不規則変化動詞の人称変化の練習、聞き取り練習、読解			講義 60分 演習 30分		
10	前置詞 (1)			事前：なし 事後：前置詞の練習			講義 60分 演習 30分		
11	前置詞 (2) 曜日ごとの予定を言う			事前：なし 事後：前置詞の復習、読解			講義 60分 演習 30分		
12	副文章			事前：なし 事後：副文章、読解			講義 60分 演習 30分		
13	人称代名詞			事前：なし 事後：人称代名詞 読解			講義 60分 演習 30分		
14	人称代名詞と再帰代名詞時間の言い方			事前：なし 事後：再帰代名詞の練習			講義 60分 演習 30分		
15	冠詞類年齢、家族の職業を言う			事前：なし 事後：冠詞類の練習			講義 60分 演習 30分		
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2016年（¥2,200+税）				参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 毎週提出の課題で評価する。									
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									



開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅱ (German II)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	前期「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済みであること (単位未修得者は履修できない)。							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>本講は、前期「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得した者を対象とする。詳細については以下の「授業内容及び計画」を参照されたい。語学学習では出席が肝要である。定刻より20分以上経過した遅刻は欠席と看做す。欠席が5回に達した時点で定期試験受験資格を喪失、「不可」の評価が下される。なお履修登録遅滞・疾病・葬祭・実習・対外試合・就職活動等を含むいかなる欠席も「公欠」とはならない。</p> <p>授業目標：</p> <p>初級文法を十分に理解し、ドイツ語技能検定試験・4級に合格するレベルへ到達する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	Wiederholung					事前：教科書該当部分の精読 事後：学習した単元の復習		講義 30分 演習 60分	
2	前置詞の格支配／前置詞と定冠詞の融合形					事前：教科書該当部分の精読 事後：前置詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
3	前置詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
4	分離動詞／非分離動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：分離・非分離の用法確認		講義 60分 演習 30分	
5	分離動詞／非分離動詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
6	話法の助動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：話法の助動詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
7	従属の接続詞 ①					事前：教科書該当部分の精読 事後：従属の接続詞の用法確認		講義 60分 演習 30分	
8	話法の助動詞／従属の接続詞 ①の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
9	zu 不定詞句					事前：教科書該当部分の精読 事後：zu 不定詞句の用法確認		講義 60分 演習 30分	
10	再帰代名詞と再帰動詞					事前：教科書該当部分の精読 事後：再帰の用法確認		講義 60分 演習 30分	
11	zu 不定詞句／再帰代名詞と再帰動詞の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
12	動詞の3基本形／過去形／現在完了形					事前：教科書該当部分の精読 事後：動詞の3基本形の確認		講義 60分 演習 30分	
13	動詞の3基本形／過去形／現在完了形の Übungen					事前：教科書該当部分の精読 事後：Übungen の成果点検		講義 30分 演習 60分	
14	後期確認問題：					事前：教科書該当部分の精読 事後：確認問題の再点検		講義 30分 演習 60分	
15	後期確認問題の解答と解説／定期試験対策					事前：確認問題の再点検 事後：定期試験対策準備学習		講義 30分 演習 60分	
<p>教本：「ドイツ語Ⅰ」と同一であり、改めて購入する必要はない。</p> <p>1. 『Deutsch mit Liebe』(朝日出版社) ¥2,860</p> <p>2. 『初級者に優しい独和辞典 増補改訂版』(朝日出版社) ¥3,080</p>					<p>参考文献：</p> <p>教本・辞典のほかは特に用いない。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>定期試験 (100%) の成績による。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>前期「ドイツ語Ⅰ」で獲得した知識を繰り返しブラッシュアップして、向後の学習へ有機的に結び付けてもらいたい。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	ドイツ語Ⅱ (German II)						科目分類	基礎科目	
担当教員	関口 宏道								
履修条件	前提科目	ドイツ語Ⅰの履修が望ましい。							
	その他	なし							
授業概要： 簡単な言葉で自分と他者、自らの日常生活を紹介出来るようにする。相手のやさしいドイツ語を聞き取り、これに応答出来るようにする。基本的なドイツ語の構造を理解することにより、読解力を養う。現代ドイツの政治、社会、経済、文化、音楽、芸術、観光、あるいはスポーツ（サッカー、テニスなど）など、そしてEUの中のドイツの存在、ドイツの抱える諸問題について知り、日本との比較をする。									
授業目標： 1. ドイツ語で「話す、聞く」ということの基本がわかる。 2. 初級文法後半の基礎知識が理解できる。 3. 日常生活を簡単なドイツ語で表現できる。 4. ドイツ語技能検定4級合格を目指すことができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）			授業形態
1	発音練習、動詞現在人称変化の復習 規則変化動詞と不規則変化動詞 haben, sein					事前：なし 事後：発音練習、動詞現在形の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分
2	冠詞（定冠詞、不定冠詞） 冠詞類の復習					事前：なし 事後：課題による格変化の練習			講義 60分 演習 30分
3	前置詞の復習					事前：なし 事後：課題による前置詞の練習			講義 60分 演習 30分
4	不定詞の用法と分離動詞（1）					事前：なし 事後：課題による分離動詞の練習			講義 60分 演習 30分
5	分離動詞（2）					事前：なし 事後：分離動詞の練習、読解			講義 60分 演習 30分
6	話法の助動詞 用事や希望を言う 中間テスト					事前：なし 事後：作文と読解			講義 60分 演習 30分
7	過去形					事前：なし 事後：過去形の人称変化の練習			講義 60分 演習 30分
8	現在完了形（1） (haben, sein)					事前：なし 事後：現在完了形の二つの形態に慣れる練習			講義 60分 演習 30分
9	現在完了形（2） 昨日したことを言う					事前：なし 事後：現在完了形の練習、読解			講義 60分 演習 30分
10	受動態					事前：なし 事後：受動態の練習			講義 60分 演習 30分
11	形容詞の格変化、比較級と最上級 好みを言う					事前：なし 事後：形容詞の格変化の練習、読解			講義 60分 演習 30分
12	関係代名詞（1）					事前：なし 事後：関係代名詞の練習			講義 60分 演習 30分
13	関係代名詞（2）、命令法部屋にあるものを言う					事前：なし 事後：関係代名詞が使われた文章の読解			講義 60分 演習 30分
14	接続法（1） 間接話法					事前：なし 事後：間接話法の練習			講義 60分 演習 30分
15	接続法（2） 非現実話法仮定の話をする					事前：なし 事後：接続法の復習			講義 60分 演習 30分
教本： 1. 『ドイツ語の時間（話すための文法）』朝日出版 2016年（¥2,200+税）					参考文献： 辞書を含めて授業中に随時紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 毎週提出の課題で評価する。									
学生へのアドバイス： たえず声を出し、音声を聞いて復習すること、語学はとくに反復、継続が大切です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	統 計 学 (Statistics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	井 上 明 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	EXCEL が 使 用 可 能 な ノ ー ト パ ソ コ ン を 用 意 す る こ と							
授 業 概 要 : 近年、データ分析を専門とするデータサイエンティストという職種が着目されているが、統計学はデータサイエンティストだけでなく、一般のビジネスパーソンにとっても必要な基礎知識である。本講義では、統計学の基礎知識とサンプルデータによる演習課題を通してその活用法を学ぶ。									
授 業 目 標 : 統計学の基礎知識を学ぶことにより、データを分析・理解するための基礎能力の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	シラバスの説明、統計学の概要					事前：シラバスを読む 事後：資料を復習する		講義	
2	統計学で用いる用語、基本統計量					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
3	ヒストグラム、パレート図					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
4	分散と標準偏差 基準値と偏差値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
5	相関分析					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
6	確率変数と期待値					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
7	確率変数と期待値 2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
8	正規分布					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
9	母集団と標本					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
10	区間推定-1					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
11	区間推定-2					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
12	母平均の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
13	母分散・母比率の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
14	有意差検定-1 一平均仮説の検定					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
15	有意差検定-2 母比率の有意差検定 まとめと活用事例					事前：指示されたキーワードの調査 事後：資料と課題を復習する		講義 30分 演習 60分	
教 本 : 講義初回のガイダンスで指示する。					参 考 文 献 : 講義内で指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 演習課題・レポート等 (100%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授業に必ず出席する、疑問点は授業中に質問して解消することを心掛けてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	動画制作・メディア配信技術 (Video Production and Media Broadcasting Techniques)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	教室によってはノートパソコンが必要である							
授業概要： 動画制作とメディア配信の基本的な技術と理論、すなわち、映像の撮影、編集、オーディオ制作、特殊効果、脚本作成、ライブストーリーミング、デジタル配信、著作権にかかわる技術と理論について、講義、演習を通して学ぶ。									
授業目標： 1) 動画制作と配信に関わる基本的技術を習得している。 2) 映像制作に関連する理論と、著作権、ライセンス等の問題を説明できる。 3) これらを統合し、映像作品を制作し、デジタル配信できる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	導入：動画制作とメディア配信の基本概念					事前：シラバスを読む 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
2	映像の構成要素： フレーミング、コンポジション、ライティング					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
3	オーディオ録音と編集の基礎					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
4	編集ソフトウェアの概要 カット、場面転換、エフェクト					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
5	ストーリーテリングと脚本：映像における物語構築					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
6	インタビューとドキュメンタリー					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
7	アニメーションとモーショングラフィックス					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
8	ライブ配信の基本：ストーリーミングソフトウェアと設定					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
9	色補正とグレーディング：映像のムードとスタイルを形成する					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
10	効果的なビジュアルエフェクトの使用					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
11	編集後のプロセス					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
12	メディア配信の基本					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
13	SNSを活用したプロモーション					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
14	配信プロジェクトの立案／著作権とライセンス／映像制作の倫理					事前：資料を下読みする 事後：コメントシートの作成		講義：60分 質疑応答：30分	
15	配信プロジェクト案の発表					事前：資料を下読みする 事後：フィードバック		講義：60分 質疑応答：30分	
教本： 適宜、参考資料を配布。					参考文献： 授業中に適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (40%)、小テスト・レポート等 (60%)、等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 3304以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となる。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	3年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	読書と豊かな人間性 (Reading and Rich Humanity)						科目分類	専門科目	
担当教員	中村 龍一								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： (1) 発達段階に応じた読書教育の理念と学校図書館の在り方、司書教諭の役割を理解する。 (2) 読書会、ブックトークと学習指導との関わりを重点的に演習する。									
授業目標： 1. 豊かな人間性を育む読書活動の意義と目的から、読書活動を推進する学校図書館の在り方を考察し、司書教諭の役割を学ぶ。 2. 読書会、読み聞かせ、ブックトークなどの企画・実践を具体的に演習することで読書指導の内容と方法を学ぶ。 3. 家庭、地域、公共図書館との連携の在り方を学ぶ。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	人間教育としての読書の意義と目的について自分の経験を話し合い、学習への構えをつくる。(オリエンテーション)					事前：なし 事後：感想200字		話し合い 45分、講義 45分	
2	厚木中央図書館を見学し、図書カードを作成。学校図書館の機能と生涯学習について気づいたことをまとめる。					事前：なし 事後：感想200字		実地見学 70分、まとめ 20分	
3	絵本との出会い「ブックスタート運動」について厚木中央図書司書から説明を受け、質疑する。					事前：予習 事後：感想200字		講義 45分、質疑 20分、 児童図書見学 25分	
4	公立中学校の年間読書指導計画を資料として、発達段階と読書の興味を考える					事前：資料を読む 事後：感想200字		資料を読む 30分、討議 30分、 まとめ 30分	
5	読書環境作りを考える。(朝読書、読書週間など時間確保、読書の習慣、動機付け) 本学図書館の改善点を考える。					事前：事前見学 事後：感想200字		本学図書館を見学 45分、 改善点を議論する 45分	
6	近隣の中学校図書室を見学、図書資料の選定について考える。(多様化する読書材、ヤングアダルト、マンガ、雑誌など)					事前：予習 事後：感想200字		図書室見学 60分、討議 30分	
7	国語科の授業を例にして、学習指導から発展読書を構想する					事前：資料を読む 事後：感想200字		資料を読む 45分、討議 45分	
8	「読書会」の実際を学ぶ。環境をテーマに、「読書会」をひらく。資料を集める。					事前：資料を読む 事後：図書館での資料集め		中央図書館で資料を集める 70分、まとめ 20分	
9	「読書会」を開催する。全員が発表し、環境問題について語り合う。					事前：発表原稿を書いてくる 事後：感想200字		読書会 60分、討論 30分	
10	「読み聞かせ」の意義と技法。新美南吉「ごんぎつね」を読み聞かせる技法を学び練習する					事前：「ごんぎつね」を読む 事後：感想200字		講義 30分、練習 60分	
11	「読み聞かせ」の会を開催する。全員が好きな本を朗読する					事前：練習してくる 事後：感想200字		朗読会 60分、感想交流 30分	
12	「ブックトーク」とは何か? 「ブックトーク」のVTRを鑑賞する。自分のテーマを考える。					事前：資料を読む 事後：感想200字		講義 30分、VTR 30分、 テーマ設定 30分	
13	「ブックトーク」の構成を考え、発表原稿作成をする					事前：資料収集 事後：感想200字		紹介本の構成と発表原稿作り 90分	
14	「ブックトーク」の会を開催、意見交換する					事前：発表原稿作成 事後：感想200字		ブックトーク 60分、 意見交換 30分	
15	読書と人間教育の観点から司書教諭の役割と課題を考える。まとめ					事前：なし 事後：感想1200字		意見交換 45分、 まとめの文章 45分	
教本： 教室で紹介する。					参考文献： 教室で指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (40%)、演習・レポート等 (50%)、定期試験 (10%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 司書教諭資格の必修の授業です。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	特 別 の 支 援 を 必 要 と す る 幼 児 理 解 (障 が い 児 保 育) (Childcare of disabled children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菊 地 創								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 心 身 の 成 り 立 ち と 発 達 の プ ロ セ ス に つ い て の 理 解 を も と に、発 達 上 の 障 害 ・ 偏 り ・ 養 育 上 の 問 題 な ど に よ り、特 別 の 支 援 を 要 す る 幼 児 の 状 態 像 に つ い て 学 ぶ。さ ら に 特 別 支 援 教 育 に 関 す る 制 度 の 理 念 や 仕 組 み、関 係 機 関 ・ 家 庭 と の 連 携 の あ り 方 を 学 び、さ ま ざ ま な 事 例 を も と に 適 切 な 支 援 方 法 を 検 討 す る。									
授 業 目 標 : 心 身 の 発 達 に 障 害 や 偏 り な ど さ ま ざ ま な 困 難 を 抱 え て い る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達 を 理 解 す る。幼 児 の 生 活 上 の 困 難 を 理 化 し、個 別 の 教 育 的 ニーズ を 検 討 し、他 の 教 員 や 関 連 機 関 と 連 携 し な が ら 対 応 し て い く た め に、必 要 な 知 識 や 具 体 的 支 援 方 法 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	特 別 な 支 援 を 要 す る 幼 児 の 例 を あ げ な が ら 講 義 の 概 要 を 説 明 す る。課 題 に つ い て の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
2	心 身 の 障 害 を 理 解 に 必 要 な 神 経 系 ・ 感 覚 器 や、障 害 の 定 義 や 分 類 に つ い て 解 説 す る。デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
3	障 害 児 保 育 の 理 念 と 健 診 シ ス テ ム ・ 自 立 支 援 シ ス テ ム ・ 特 別 支 援 教 育 に つ い て 検 討 す る。デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
4	自 閉 ス ペ ク ト ラ ム 症 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
5	注 意 欠 如 多 動 症、学 習 障 害 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
6	視 覚 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
7	聴 覚 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
8	知 的 障 害 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
9	肢 体 不 自 由 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
10	病 弱 の あ る 幼 児 の 特 性 や 心 身 の 発 達、教 育 的 ニーズ に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
11	社 会 ・ 成 育 環 境 上 の 問 題 を 抱 え る 幼 児 の 理 解 と 対 応 に つ い て 検 討 す る。事 例 の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
12	家 庭 へ の 対 応 ・ 支 援 方 法 に つ い て 検 討 す る。デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
13	園 内 や、外 部 機 関 と 連 携 し、支 援 す る 方 法 に つ い て 検 討 す る。デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
14	自 立 活 動、個 別 の 指 導 計 画 お よ び 個 別 の 教 育 支 援 計 画 に つ い て 検 討 す る。デ ィ ス カ ッ シ ョ ン と 発 表 を 行 う。					事 前 : 指 定 課 題 事 後 : ノ ー ト、疑 問 点 の 整 理。		講 義 50 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 20 分、発 表 20 分	
15	講 義 全 体 の ま と め と 理 解 度 の 確 認 を 行 う。					事 前 : 講 義 全 体 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義 90 分	
教 本 : 授 業 プ リ ン ト と 関 連 資 料 の 提 供。			参 考 文 献 : 「新 版 障 害 児 保 育」 谷 田 貝 公 昭 ・ 石 橋 哲 成 (監 修) 一 藝 社						
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 受 講 の 態 度 や マ ナ ー に 留 意 す る こ と。障 が い や 社 会 ・ 成 育 環 境 上 の 問 題 を 抱 え る 幼 児 に 関 す る 情 報 に ア ン テ ナ を 張 っ て、積 極 的 に ア ク セ ス す る よ う に し て く だ さ い。ま た、講 義 内 容 に 関 す る リ ア ク シ ョ ン ペ ー パ ー の 提 出 を 求 め ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									